

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
1	全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1	必修		○			授業の受け方（大学での授業における学びの方法）、建学の精神（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）、大学生としての社会的責任・責務、学び続けるための大学生活サバイバル・スキル、GPS-Aアセスメントテスト受験、留学、海外研修、語学課外活動、域学共創プログラムなどの実践的学習への参加法、クリティカル・リーディング、レポート作成法、期末試験の対策などを学ぶ。			○		◎						
2	全学部共通基盤科目群	自然科学概論	2	選択			○		人間は古来、我々を取り巻く自然の理解に努めてきた。本講義では、歴史を振り返りつつ、人類が到達した現在の自然観について、目に見えない・想像の世界から等身大のスケール、更に顕微・宇宙などの膨大な世界に至るまでを概説する。自然と人間について深く考える姿勢を培い、3.11後を生きるための基礎的科学知識を身に付けることを目標とする。			○	○							
3	全学部共通基盤科目群	生命現象の理解とその応用－生命科学	2	選択					生命科学は現代人にとり必須の教養であるが、研究や開発のスピードが極めて速いため一般には学ぶ機会が少ない。本講義では、生命の仕組みと、生物の多様性の創出メカニズムについて、生命の本質を科学の視点から理解する。そのうえで、遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生体医療、ワクチン等予防医学などの先端的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。			○	○							
4	全学部共通基盤科目群	生物からみた環境の仕組み－生態学	2	選択					地球環境を支える「自然」の仕組みを理解するうえで重要な生態学（Ecology）の基礎を学ぶ。生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史（生きざま）を知り、生物の多様性やその創出機構、そして生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に着目し、「生態系の中での人間」という視点から環境問題を考えるきっかけとしたい。			○	○							
5	全学部共通基盤科目群	食環境論	2	選択					食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs（持続可能な開発目標）、フードテック、食品産業、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちを取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいのかを考える。なお、毎回講義内容をマインドマップの手法を用いてノートにまとめ、事前・事後学習に役立てる。			○	○							
6	全学部共通基盤科目群	香りと環境	2	選択					私たちを取り巻く環境にはさまざまな香り、においが存在している。異なる視点から香りやにおいをテーマに取り上げた新聞記事を読み、その作用や役割を考える。毎回、事前学習・事後学習で自身の意見をワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイデアを提案したりする機会を設け、香りやにおいがもつ可能性を拓る。			○	○							
7	全学部共通基盤科目群	身体の理解	2	選択					ヒトの身体は様々な器官が相互に関連して成り立っている。これらの器官が複雑に、協調しながら運動は起こっている。この授業ではヒトの身体の話や動きについて学ぶとともに、運動を起こす骨や筋について理解する。			○								
8	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA	2	必修		○			本講義では、Microsoftのアプリケーションを題材として、基礎的なビジネス文書の作成方法を学ぶ。本講義で利用するアプリケーションは下記の4種類である。Outlook(メールの送受信)、Word(文書作成)、Excel(表計算の利用)、PowerPoint(プレゼンテーションの作成)。また、実践的な能力を身に付けるために、講義内で文書作成などの実習を行う。					◎						
9	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリB	2	選択		○			本講義ではPowerPointを題材として、意思伝達や相互理解など重要な役割を果たすプレゼンテーション能力の向上を図る。実践的な能力を身に付けるために、講義内でスライドファイルの作成を行うことで知識の定着を図る。プレゼンテーションを実施することで、意思伝達や相互理解などのプレゼンテーション能力の向上を図る。					○						
10	全学部共通基盤科目群	情報セキュリティA	2	選択					インターネットを中核とするITが企業の活動に深く関連することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となっている。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解する。			○	○	○						
11	全学部共通基盤科目群	情報社会と情報倫理	2	選択					メディアが社会に与える影響、情報倫理、多様性、プライバシーといった現代の倫理的課題を考察する。また、コンテンツの創作・利用に関わる著作権、肖像権、知的財産権等の法的基礎知識を学び、クリエイターとしての社会的責任を養う。			○	○	○						
12	全学部共通基盤科目群	人工知能論	2	選択				○	AI（人工知能）の基本理論と、AIGC（AI Generated Content）を含むメディア芸術における多様な活用事例を概観する。AI技術が社会やクリエイティブ活動に与える影響を理解し、その倫理的な側面について基礎的な知識を習得する。					○						
13	全学部共通基盤科目群	データサイエンスI	2	必修		○		○	本講義では、データサイエンスをはじめて学ぶ学生を対象に、データサイエンスの導入、基礎、心構の3つを学ぶ。導入では、近年のデータサイエンスやAIの発展やしくみを学ぶ。基礎では、Excelによるデータ演習を実践する。心構では、データを活用する際の留意事項を学ぶ。最後にはデータでプロジェクトを実践することで、AI時代に必須のデータサイエンス・リテラシーの習得を目指す。					◎						
14	全学部共通基盤科目群	データサイエンスII	2	選択		○		○	本講義では、データサイエンスIで学んだ内容をもとに、プログラミングの基礎とデータ分析の実践を学ぶ。データサイエンスで主眼のRを用いてプログラミングを学びながら、実際のデータ分析事例を題材にデータサイエンスの実践を行う。実際に手を動かささまざまなデータ分析を行うことで、データサイエンティストとして第1歩を踏み出すことを目指す。					○						
15	全学部共通基盤科目群	モデル化とシミュレーション	2	選択				○	コンピュータの演算能力の向上と記憶容量の大幅増加に伴って、コンピュータシミュレーションは天気予報や地球温暖化予測などの自然科学分野だけでなく、物流の最適化や株価変動、災害時の人間の行動予測などの社会問題にも幅広く応用され、大きな成果を上げている。本授業では、社会科学と自然科学の分野から幾つもの問題を取り上げて、コンピュータシミュレーションによる問題解決の実践を学ぶ。			○	○	○						
16	全学部共通基盤科目群	プログラミングA	2	選択				○	この授業では、Pythonというプログラミング言語を用いて、プログラミングの基礎を一から学修する。Pythonの利用方法や特徴、基本的な用語の説明から入り、基本的な入力操作や、if文やmatch文を使ったプログラムの流れを制御するための分岐構造、複雑な条件分岐における入れ子構造、while文やfor文を使ったプログラムの繰り返し処理や多重ループなどについて学修する。					○						
17	全学部共通基盤科目群	アルゴリズムA	2	選択				○	本講義では、学習初心者を対象にアルゴリズムとは何かから初めて、アルゴリズムの基礎的事項を教授する。まず、データ構造（数値・リスト・配列・スタック・キュー・木構造など）とアルゴリズムとの関係性を学ぶ。次に、データ探索（順次探索法・貪婪法・二分探索法など）を例に基本アルゴリズムと処理効率について考える。					○						
18	全学部共通基盤科目群	情報システム論	2	選択				○	情報システムは、経営戦略を考える上で中核的な役割を担っており、その重要性は増すばかりである。また、情報システムを成り立たせている情報通信技術(ICT)の進歩は著しい。この進歩を支えられて急速に業績を伸ばす企業が経済を牽引する存在になっている。そこで本授業は、経営情報基礎で学んだコンピュータに関する知識を復習しながら、より発展した詳しく情報システム内容について知識を深める。			○		○						
19	全学部共通基盤科目群	統計学	2	選択					統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。1、記述統計の基礎：平均値、グラフ化など、統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。2、確率変数と確率分布：統計モデルを定量化するために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。3、推測統計の基礎：主に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。					○						
20	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(解析)	2	選択				○	本授業では、微分積分の基本概念を学び、数学的な計算力を養う。前半では、等差数列・等比数列を中心に数列の一般項や和の計算を学び、数列の極限について理解を深める。次に、関数の極限や微分法を学び、関数の変化の特徴を数学的に捉える手法を修得する。後半では、積分法を学び、不定積分・定積分の計算を通じて、面積や体積の求め方を修得する。					○						
21	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(線形代数)	2	選択				○	本授業では、線形代数の基礎として行列の計算方法とその応用を学ぶ。前半では、行列の基本的な用語を理解し、行列の簡略化や行基本変形を用いた連立1次方程式の解法を修得する。次に、行列の演算（和、スカラー倍、積）や逆行列、行列式の計算を学び、行列の性質を分析する基礎力を養う。後半では、行列の応用として産業連関分析やMarkov連鎖を学び、行列を用いた数値モデリングの基礎を修得する。					○						

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10
22	全学部共通基盤科目群	インターネット配信	2	選択					急速に普及したインターネット動画配信を対象に、その特性と可能性を理解し、効果的な活用法を探究することを目的とする。専用機材や汎用機材を用いたストリーミング配信の企画・構成・運営を初歩から応用まで学び、映像メディアの新たな表現形態を実際に体験的に理解する。さらに、実際の生配信制作を通じて、情報発信の実践力を獲得し、現代のメディア環境に対応できる知識と応用力を養う。					○					
23	全学部共通基盤科目群	観光の現在と未来	2	選択					本講義は、観光が定められる現代的意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学習することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオムニバス形式で展開する。人類学や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源（芸術、劇場、自然など）や、観光と社会の関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深める。		○	○	○						
24	全学部共通基盤科目群	ヘルスツーリズム	2	選択					少子高齢化社会を迎え、健康づくりが「個人生活の質」から「地域・環境の質」まで求められており、新しい健康観念・ウェルネスが提唱されている。本講義では、健康増進の環境及び地域文化とのかわり方で心身を磨く広義のヘルスツーリズムの概念を理解し、生涯に渡って、ウェルネスの考え方、ウェルネスのライフスタイルを維持するため基礎知識を身につけることを目的とする。		○	○	○	○					
25	全学部共通基盤科目群	社会心理学	2	選択					本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかわり方はどのように作られていくのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。				○	○					
26	全学部共通基盤科目群	生活と文化	2	選択					私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を感じている。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢化社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。		○	○	○						
27	全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論	2	選択					生涯スポーツとは、スポーツを通じて生活の質の向上を目指し、個人のライフスタイルに応じた運動やスポーツを生涯にわたって楽しむことである。本授業では、スポーツについて人文科学（歴史）、社会科学（国の政策）、自然科学（人体の構造や機能）などの観点から理解を深めるとともに、運動やスポーツを実現するための基礎的なトレーニング方法を学ぶ。		○	○	○	○					
28	全学部共通基盤科目群	スポーツ社会学	2	選択					現在、我々が慣れ親しんでいる多くのスポーツの原型は、19世紀末イギリスを中心にヨーロッパから世界中に伝えられたものであるが、社会環境の変化にともない、スポーツが社会に果たす役割や意味は変化してきている。本授業では、スポーツやスポーツの歴史を理解した上で、現代社会におけるスポーツの考え方や問題点を明らかにし、各々の問題点について自らの意見を論理的に説明できることを目標とする。			○	○						
29	全学部共通基盤科目群	ボランティア論	2	選択					この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含みもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について調査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開することに着目します。その上で、コミュニケーションの重要性は日々高まっていますが、そもそも「コミュニケーション」とはどのような概念・行為として定義できるのでしょうか。本講義では、コミュニケーションが単独で成立するものではなく、常に他者や「メディア」の存在を前提とすることに着目します。その上で、コミュニケーションを支える存在や情報環境について考察するとともに、20世紀半ば以降から現在に至るまで、メディアを媒介としたコミュニケーションの実践を通じて、障がい者と地域の相互理解と関係形成を促進する。アール・ブリュットという芸術教育や評価額にとらわれない自由な表現を活用し、作品展示等の活動の企画・実施・評価を通して、地域課題の把握と解決に向けた実践力および協働的態度を養うとともに、地域共生社会の実現に資する力を育成する。		○	○	○						
30	全学部共通基盤科目群	コミュニケーションの基礎	2	選択					現代社会において「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、そもそも「コミュニケーション」とはどのような概念・行為として定義できるのでしょうか。本講義では、コミュニケーションが単独で成立するものではなく、常に他者や「メディア」の存在を前提とすることに着目します。その上で、コミュニケーションを支える存在や情報環境について考察するとともに、20世紀半ば以降から現在に至るまで、メディアを媒介としたコミュニケーションの実践を通じて、障がい者と地域の相互理解と関係形成を促進する。アール・ブリュットという芸術教育や評価額にとらわれない自由な表現を活用し、作品展示等の活動の企画・実施・評価を通して、地域課題の把握と解決に向けた実践力および協働的態度を養うとともに、地域共生社会の実現に資する力を育成する。				○		○	○	○		
31	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトA	2	選択		○		○	この科目では、東金市のオリブ産地化を様々な形で応援するプロジェクトを実施します。オリブの歴史・歴史・栽培から商品化、ヘルスケアなどの効用、地域とのかかわりなどを知り、イベントの企画・運営やオリブ関連商品の開発を通じ、オリブ産地化に関わる地域の皆さんと交流し、まちの活性化、地域住民の健康支援などについて考え、解決に向けた取組みを企画・実践します。					○		○	○		
32	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトB	2	選択		○		○	本演習は、地域に定着しているさまざまな価値の発見、磨き上げや課題の解決に取り組むプロジェクトを実施する。参加学生は、ひとりひとりが主体となり、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々と協働して取り組むことを目指す。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養うことを目的とする。					○		○	○		
33	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトC	2	選択					デジタル化の進展に伴う高齢者のデジタルデバイドの課題に対し、スマートフォンを活用支援を通じて解決を図る。学生がデジタルコーチとして講習会の企画・実施・評価を行い、利用方法の説明技術および支援力を修得するとともに、高齢者の生活満足度やQOL向上への効果を検証し、地域における実践力と協働的態度を養う。					○		○	○		
34	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトD	2	選択		○		○	この科目では、東金市のオリブ産地化を様々な形で応援するプロジェクトを実施します。オリブの歴史・歴史・栽培から商品化、ヘルスケアなどの効用、地域とのかかわりなどを知り、イベントの企画・運営やオリブ関連商品の開発を通じ、オリブ産地化に関わる地域の皆さんと交流し、まちの活性化、地域住民の健康支援などについて考え、解決に向けた取組みを企画・実践します。					○		○	○		
35	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトE	2	選択		○		○	本授業は、地域共生社会の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むプロジェクトである。プロジェクトでは参加学生一人ひとりが主体的に行動し、異なる背景を持つ多様な人材、例えば、他学部の学生や、企業・地域の方々などと協働する。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。					○		○	○		
36	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトF	2	選択		○		○	「競技内容」「競技レベル」「年齢」によるフィジカルレベルや要求能力の違いを体験するとともに、それに応じたエクササイズ指導方法の立案を学び、実践する。若年者～高齢者まで、全年齢を対象に、「健康増進」「障害予防」の重要性を学ぶとともに、ライフステージの変化に応じて必要な機能の違いを学び、また生活を豊かにするために必要となる「運動」について理解する。そして、それらを企画・立案する経験を得る。					○		○	○		
37	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトG	2	選択					子どもを対象とした防災教育の実践を通じて、地域におけるコミュニケーション形成と課題解決を図る。学生が学童保育や放課後等デイサービス等の場で、かるた等を用いた防災教育活動の企画・実施・評価を行い、多様な背景をもつ地域住民や関係機関と協働する中で、創造性およびコミュニケーション能力を高め、地域共生のまちづくりに資する実践力と協働的態度を養う。					○		○	○		
38	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトH	2	選択		○		○	城学共創プロジェクトは、学生が主体となり地域の方々と協働して取り組む。プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。当授業は、東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することで、祭りと地域、人々と関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体験することにより地域の一員としての意識を高める。					○		○	○		
39	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトI	2	選択		○		○	本講義は、東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる地域課題について、地域の様々な団体と連携し、実践的に取り組むことを通じて、課題発見力、課題解決力を養うものである。2025年度は地域の農業の人手不足によるフードロス、耕作放棄による里山環境の消失や生物の絶滅、町おこしのためのテーマに取り組んでいる。					○		○	○		
40	全学部共通基盤科目群	城学共創プロジェクトJ	2	選択		○		○	当授業は、地域に定着しているさまざまな価値の発見、磨き上げや課題の解決に取り組むプロジェクトを実施する。プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となりつつ、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々と協働して取り組む。プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。					○		○	○		

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10		
41	全学部共通基盤科目群	史学概論	2	選択					人間社会の様々な事象（事件、制度、文化等）が現在あるような形と内容になった因果関係を探るのが歴史学である。先ず、歴史を研究するとはどのような行為かを考える。事実と史実と真実の違いは何か。次に、日本以外の地域の歴史のなかからテーマを選び、人間の歩みにおける因果律について考察したい。政治史を主としながらも、その裏にあるテクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人間社会の発展を概観する。		○	○	○								
42	全学部共通基盤科目群	日本史を学ぶ	2	選択					本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へといった歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなる予定であるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生が、日本の歴史を学ぶ意欲をもち、今後の日本と世界のなかわりを考える力をつけることを目指す。		○	○	○								
43	全学部共通基盤科目群	アジア史概論	2	選択					アジア地域、とりわけ東アジアは地球上の他地域から地理的に孤立した地域であるため、他地域における文明の展開とは異なる。近代以後のアジア史は自らの特殊性を世界史に組み込むための痛みとのかげりや摩擦からの逃避として書くことができる。この近現代を理解するためには、近世以前の歴史もある程度理解する必要がある。生態系、技術、言語、法等の相互作用と変遷を、農耕、軍事、国語化、幕政等の具体例を検討しながら俯瞰する。		○	○	○								
44	全学部共通基盤科目群	現代史入門	2	選択					近現代史を体系的に理解することで現代社会の背景を深く理解力を養うことを目的とする。前近代と近代の違いや二大戦以前からの世界情勢を追い、政治・戦争に加え経済・社会の流れを意識して学ぶことで、国際情勢の変化と日本の位置づけを考察する視座を得る。講義を中心に進め、映像資料を交えつつ歴史的背景や基礎知識を解説する。各国の小課題を通して因果関係を整理し、歴史的事象を自ら説明できる力を培う。		○	◎	○								
45	全学部共通基盤科目群	原野の文化と歴史	2	選択					本講義は、千葉県すなわち「原野」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な特徴や特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿う形で学修する。併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起こしに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。			○									
46	全学部共通基盤科目群	映像メディア史	2	選択					人類は映像というメディアをどのように利用、活用してきたのか。その歴史を辿ると同時にメディアとしての映像はいかに発展してきたかを分析、考察する。			○									
47	全学部共通基盤科目群	音楽史	2	選択					本授業では、世界の音楽産業に最も大きな影響を与えてきたポピュラー音楽を対象とし、その歴史的展開を概説するとともに、ジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴や成立した時代について学ぶことを目標とします。			○									
48	全学部共通基盤科目群	政治学入門	2	選択	○				アメリカ政治における権力の抑制と均衡のシステムがどのように機能するのかを学ぶことによって、政治学を学ぶに必要な基礎知識を習得する。具体的には、第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑制の必要性について学ぶ。第二に、アメリカの大統領制の特徴を日本の議院内閣制と比較しながら学ぶ。第三に、現代アメリカ政治における分権化の背景を学ぶ。		○	◎	○								
49	全学部共通基盤科目群	経済学入門	2	選択					本講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学の基本的な概念や思考方法を習得することを目的とする。経済学を学ぶと経済学的な視点から論議的な意思決定ができるようになる。講義では日常の出来事や時事ニュースも題材にして、経済の仕組みや専門用語をわかりやすく解説する。また、経営学との違いにも触れつつ、ビジネスの現場でも応用可能な経済学的思考法を紹介する。		○	◎	○								
50	全学部共通基盤科目群	社会と経営	2	選択					企業経営とは、社会のニーズに対応する商品やサービスを開発し、それらの提供により価値提供を図りながら継続的、かつ発展的に活動してゆくことである。本講義は「企業価値」の側面からアプローチする新しいスタイルの経営学入門講座である。経営学の基本的知識の習得を到達目標とし、同時に社会と企業経営の関わりについて考察することを本講義のテーマとする。			○									
51	全学部共通基盤科目群	社会と会計	2	選択					本授業では会計学の基本的なテキストを用いた上で、以下の3点を目的に開講する。1）財務諸表に企業の在り方や活動がどのように記載されるのかを大まかに理解する。2）社会人にとって必須の書である日本経済新聞の企業欄や証券欄を読みこなせる会計の読解力を身に付ける。3）より高度な会計学を学ぶ動機付けをする。授業はオンデマンド形式で行い毎回のテストと課題提出を求める。また期末テストとしてはレポートの提出を課す。			○		○							
52	全学部共通基盤科目群	マーケティング論	2	選択					成熟した消費社会において、企業が顧客ニーズを捉え、価値を創造・提供し、競争優位を築くためのマーケティングの基礎を学びます。本授業では、マーケティング・ミックス（4P）、STP分析、製品ライフサイクルといった基礎知識はもとより、消費者行動の分析、製品、ブランド、価格、プロモーション、流通といったマーケティング戦略の実践面も具体的な事例(ケース)も紹介しながら習得し、問題解決能力を養います。			○		○							
53	全学部共通基盤科目群	広告戦略論	2	選択					広告業界の仕組みや役割を理解し、広告が完成するまでの流れを学ぶ。マスメディアを中心に、最新のデジタルメディアの動向や広告会社のコンテンツ戦略を考察する。広告代理店や制作会社など関連業界に関心を持ち、将来進路として志す学生に有益な知識と実践的視点を提供する。			○		○							
54	全学部共通基盤科目群	社会学	2	選択					「社会とは何か」という根本的な問いを出発点に、個人の認知を超えて存在する社会の特質を理解する視点を養うことを目的とする。日本人やアメリカ人といった集団に関する言説の背景を手がかりに、なぜそのような「社会像」が語られるのかを考察する。授業はテーマごとに連続講義を行い、必要な情報や知識を提供すると同時に、受講者自身が思考を深める機会を設ける。理解度確認やレポートを通じて、多様な視点から社会を捉える力を培う。		○	○	○								
55	全学部共通基盤科目群	社会調査	2	選択					この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを握って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。						◎						
56	全学部共通基盤科目群	法律学概論	2	選択					市民社会の基礎を支えるものとして、法律制度が重要な役割を担う。本講義は、受講者自身がリーガルマインドを養成するため、法律に関する基礎知識を教養として身に付けることは、講義の目標である。本講座は、憲法・民法・商法の学者が共同編纂したテキストを活用し、法とは何かを初めに、法と裁判、日本の裁判制度と法解釈、さらにいくつか重要な実定法を紹介すると共に、法令制定のプロセスも紹介していく予定。		○	◎									
57	全学部共通基盤科目群	日本国憲法	2	選択					日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に務める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、昨今、話題の護憲・改憲論にも論及する。		○	○									
58	全学部共通基盤科目群	著作権	2	選択					著作権や知的財産権の重要性にも触れ、自身の創造的な活動を社会で展開するための基礎を築く。			○	○	○							
59	全学部共通基盤科目群	社会福祉学A	2	選択					21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助願にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。		○	○	○								
60	全学部共通基盤科目群	社会福祉学B	2	選択					本講義では、社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日の展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。		○	○	○								
61	全学部共通基盤科目群	経営情報基礎論A	2	選択			○		ICTの進展に伴い、組織における情報化が深化してきている今日の社会においては、われわれ一人一人がICT利用のための知識やノウハウを修得することが求められている。本授業では、情報学の学びにおける基礎を学修する。産官学が連携して行う国家試験である「ITバースト試験」で出題される大分頻出項目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する基礎的知識を身に付けることを目標とする。					○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の理解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10		
62	全学部共通基礎科目群	世界遺産のいま	2	選択					「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。本講義は、世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGs」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合い、その深い理念を理解することを目的とする。		○	◎	○								
63	全学部共通基礎科目群	美術・芸術学	2	選択					「美」の理念（美しさ、立派さをうちに含む理念）という人間性の共通基盤に対する理解を深め、個々の人間の内面に生きづく創造性を探ることをめざらんとする。具体的には、美術・芸術作品の身近な経験をもとにその社会的・文化的・歴史的な存立条件を考察し、想像力を活かして過去の人々の同様の存立条件へと考察をひろげる。この作業を通して、美術・芸術一般の成立条件、さらには、「『美』とはなにか」という問いへと通ずる。			◎	○								
64	全学部共通基礎科目群	表象文化研究	2	選択					映画、アニメ、舞台、音楽、マンガなど、3分野にまたがる多様なメディア芸術作品を多角的に分析し、その表現意図、構成、社会的背景を深く考察する。具体的には、物語構造、視覚表現、音響デザイン、そして作品が生まれた時代背景や社会情勢がどのように影響しているかを深く掘り下げ、批評的思考力を養う。単なる作品鑑賞に留まらず深い考察を通じて、自身の創作活動に活かす。			◎	○								
65	全学部共通基礎科目群	世界の文学	2	選択					「世界の文学」といえば、世界の料理を食べ歩く番組のように案内人の趣味を披瀝する科目かと思われるかもしれない。しかし文学を味わい比べるためには、一個人の趣味を超えて比較の観点と基準を他者と共有しうることが構想し、その構想を他者とともに吟味しなければならない。それゆえ「世界の文学」は、近代の小説、詩、戯曲のようなジャンルを網羅みこせずに文学とは何かを問い、文学の世界性をつかもうとする試みである。				○	◎							
66	全学部共通基礎科目群	演劇研究	2	選択					演劇・ミュージカル・舞踊といった舞台芸術を対象に、その歴史・構造・表現方法を多角的に学び、舞台ならではの表現の力と社会的役割を理解することを目的とする。日本の伝統芸術から現代演劇、海外の主要作品やクリエイターまで幅広く取り上げ、作品や上演の背景を考察する。また、舞台表現に欠かせない俳優・演出家・ダンサーなど創り手の関わりを理解し、舞台芸術の魅力と可能性を検討する。映像資料や音楽資料も活用しつつ、受講者自身の体験や議論を通じて、舞台芸術を学ぶ基礎的視座を養う。		○	○	○								
67	全学部共通基礎科目群	古典芸術研究	2	選択					伝統芸術の一つである落語を題材に、その歴史と変容を学び、口承文化の継承や現代的意義を考察する。名作や新作落語の内容を分析し、日本人の価値観や社会観の理解を深めるとともに、実演の演じ方を体験することで、言語の構造や表現を実感的に学ぶ。		○	○									
68	全学部共通基礎科目群	文学を読む	2	選択					本授業は、日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全篇を読み通すことを重視し、比較的入手しやすい短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的概念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のありようについて考える機会を提供する。		◎	○									
69	全学部共通基礎科目群	教育学	2	選択					教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えるが学習をすすめる。			○									
70	全学部共通基礎科目群	心理学	2	選択					心理学は、人の意識や感情、それらの表れとしての行動を研究し、人間の心や思考を科学的に解明しようとする学問である。本講義では、科学として人の「こころ」の様々な側面を探求していくことをテーマに、人の意識や精神活動及び心のケアとサポートについての理解を深めることを目標とする。心理学に関する基礎的なテーマを取り上げ、身近な事象や経験を道しながら、関連する見識について解説をし、理解を深めていく。				○								
71	全学部共通基礎科目群	基礎の数学	2	選択					この授業では、採用テストSPI3の非言語分野、公務員試験の数的処理、情報科学に関連する数学の問題など、社会で必要とされる基礎的な数的問題を扱う。出題された内容をすべて解けるようになることが到達目標である。授業はオンデマンド形式の録画を視聴しながら取り組む演習方式である。毎回、講師がその回のトピックと例題を説明した後、受講者は出題された演習問題を解き、講師がその解説を行う。毎回小テストを課す。					○							
72	全学部共通基礎科目群	ジェンダー論	2	選択					女性解放運動（フェミニズム）の歴史を学ぶことを通じて、ジェンダー研究がどのように発展してきたのかを理解する。そして現代社会において、ジェンダーに係る諸問題が極めて多様であることを様々な具体例を通じて学び、諸問題を解決していくための方法を各自が考察する。授業はオンデマンド形式で実施し、関連する資料を適宜示しつつ進めていく。			○	○								
73	全学部共通基礎科目群	根拠への問い-哲学へのとびら	2	選択					みずから問いを引く上げ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一つでも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすぐに断じ持って、定めている正解を求め断じして復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。				○	○							
74	全学部共通基礎科目群	異文化通応論	2	選択		○			本授業は、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の視点から異なる文化環境での適応を考察する。まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験に伴う不適応の実態と要因を解説する。次に、カルチャーショックの諸相やU字曲線などの適応モデルを紹介し、自身を知ることの重要性も習得させる。最後に、適応の条件や成長のプロセスとしての意義を理解し、異文化適応力を養うことを目標とする。				◎	○							
75	全学部共通基礎科目群	宗教学概論	2	選択					日本人は無宗教とされるが、寺院の数だけでもコンビニの総数を上回る。今日、多文化共生が叫ばれるが、文化と宗教の関係は密接である。本講義では、一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問うていく。また、「宗教」からさまざまな現代問題にも迫っていく。現代人に必要な一般教養として「宗教」を講義する。		○	◎	○								
76	全学部共通基礎科目群	倫理学概論	2	選択					みずから問いを引く上げ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一つでも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすぐに断じ持って、定めている正解を求め断じして復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。			◎		○							
77	全学部共通基礎科目群	スポーツ科学A	1	選択		○			スポーツ実技科目である。スポーツ種目のルールを理解し、ゲームができる技能を習得する。主に球技等のチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさや快感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得を目標とする。さらに、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法で生涯にわたってスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。	○					○						
78	全学部共通基礎科目群	スポーツ科学B	1	選択		○			スポーツ実技科目である。スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれるが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさや快感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。	○						○					
79	全学部共通基礎科目群	しゃべりのスキルUp I	2	選択					社会生活やキャリア形成に不可欠な会話力を多角的に養う。発声・滑舌、文章構成力、想像力、継続力、表現力などを段階的に学び、プレゼンや面接で説得力ある言葉を使える力を身につける。双方向型とオンデマンド型を組み合わせ、インプットとアウトプットを実践的に強化し、即戦力となる表現スキルを習得する。	○					○						
80	全学部共通基礎科目群	Drug Action Science	2	選択					Drug Action Scienceはくすりの効果とその働き方について、花粉症や胃痛に効くくすりなど日常生活するものを取り上げて学びます。しかし、くすりの使い方を誤ると私たちに悪影響をもたらすことも学び、くすりを正しく使用する理由を理解しましょう。漢方薬という日本の伝統医学に基づくくすりがあるけど、どのような時に服用するのかなどのテーマからくすりに関するリテラシーを高めていきます。				○								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
81	全学部共通基礎科目群	症状に合わせた健康セルフケア	2	選択					日本の医療制度の基礎や調剤薬局、ドラッグストア、クリニック、病院などの医療施設について理解し、健康診断における検査値異常時の対応や身体に異変を感じた時のセルフメディケーションについて学ぶ。			○								
82	全学部共通基礎科目群	感染症とくすり	2	選択					近年、新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症に対して改めて興味を持つ方が増えていますが、世の中には様々な情報が飛び交っていて、どれが正しい情報か分かりにくいのが現状です。本講義では、代表的な感染症を例に挙げ、病気になる仕組みについて学び、また、感染症にかけられないようにするには、かかってしまったときにはどうすれば良いのかを理解することで、世の中にある感染症に関する様々な情報を吟味して身を守るための合理的な行動がとれるよう学習をすすめます。			○								
83	全学部共通基礎科目群	ハーブ・サプリメント・漢方薬	2	選択					日本では、生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、高血圧など）などの慢性疾患の患者は年々増加している。生活習慣病を発症すると多くの場合、一生薬にわたり治療を継続することになり、QOL (quality of life) が低下すると考えられている。そのため、健康維持・増進や疾病の発症予防に関わる知識を習得し、その知識をもとに自らの健康を管理することが重要である。			○								
84	外国語科目群	Fundamentals of English I	2	必修	○	○			高校英語で学んだ知識を基礎にし、それを実際のコミュニケーション能力として発揮することを目指す。積極的な参加が求められ、ペアワークやグループワークを通して学習する。各セジュールの初めに目標を設定し、終了時に振り返りを行い、自律的な学習力を養う。テキストに関連するオンライン課題による予習・復習を定期的に行い、ライティング課題やTOEIC課題を行い、最終レポートを提出する。	◎		○	○							
85	外国語科目群	English for Specific Purposes A	2	選択		○			This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Throughout the semester, students will explore various ideas on everyday topics, as well as learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.	◎		○	○							
86	外国語科目群	Fundamentals of English II	2	必修	○	○			Fundamentals of English Iで学んだ基礎を踏まえ、英語を使う自信と使う力をさらに広げることを目指す。授業では協働的な活動を多く取り入れ、ディスカッションや課題解決を通して表現力を鍛く。オンライン課題による予習・復習を継続し、反復を通じて定着を図る。学期中には複数のライティング課題やTOEIC関連の練習を行い、最終的にレポートをまとめて提出する。	◎		○	○							
87	外国語科目群	English for Specific Purposes B	2	選択		○			This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Throughout the semester, students will explore various ideas on everyday topics, as well as learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.	◎		○	○							
88	外国語科目群	Oral Fluency I	2	必修	○	○			Oral Fluency Iは、学生のスピーキング力、とくに会話やディスカッションの能力を高めることを目指す科目とする。英語で会話や議論を行う方法を学び、流暢さを養いながら幅広い会話ストラテジーを身につけることを目的とする。さらに、日常的な話題に関する新しい語彙や表現を習得し、英語での討論力を強化する。	◎		○	○							
89	外国語科目群	English for Advanced Studies A	2	選択		○			This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four topics: Psychology, Media Studies, Science, and Humanities. Each topic is one unit that contains two chapters. Each unit begins with activities designed to develop interest, vocabulary, and knowledge of the topic. Students will prepare for and participate in lectures and discussions on the topics. They will be assessed through their production, participation, written quizzes and reports.	◎			○	○						
90	外国語科目群	Oral Fluency II	2	必修	○	○			Oral Fluency IIは、Oral Fluency Iで身につけた力をさらに広げるスピーキング・会話・ディスカッションの科目とする。ペアや少人数グループでのやり取りを通して積極的に発話の機会を持ち、読書や会話ストラテジーを学び、リスニング練習も行う。継続的な練習によって表現力と理解力を伸ばし、履修後には自分の英語力にもっと自信を持てるようになる。	◎		○	○							
91	外国語科目群	English for Advanced Studies B	2	選択		○			This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four topics: Marketing, Social Sciences, Media Studies, and Linguistics. Each topic is one unit that contains two chapters. Each unit begins with activities designed to develop interest, vocabulary, and knowledge of the topic. As the class works through a unit, we will develop a process with five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students will prepare for and participate in lectures and discussions on the topics. Finally, students will be assessed not only through their production and participation, but also through written quizzes and tests.	◎			○	○						
92	外国語科目群	TOEIC A	1	選択		○			この授業では、読解力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に読書を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に読書を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。	◎		○	○							
93	外国語科目群	TOEIC B	1	選択		○			この授業では、読解力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に読書を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に読書を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。	◎		○	○							
94	外国語科目群	TOEIC C	1	選択		○			この授業では、読解力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に読書を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に読書を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。	◎		○	○							
95	外国語科目群	TOEIC D	1	選択		○			この授業では、読解力強化と読解力向上に重点を置き、TOEIC試験に向けた準備を整える。試験対策を通じて、学生は積極的に読書を練習し、それにより英語の習熟度を高める。教室内外で積極的に読書を練習し、同時に発音スキルの向上も促す。課題は毎週決まった日時までに提出し、採点・評価ののち、必要な修正を加えて翌週までに再提出することが求められる。	◎		○	○							
96	外国語科目群	Basic Writing Skills I	2	必修	○	○			Basic Writing Skills Iでは、文構造、パラグラフ展開、ライティング・プロセスといった基礎的スキルを学ぶ。授業ではテーマに沿った読書や基本文法を学び、文のつながりや一貫性を意識した練習を行い、短い段落ライティングやインクラス課題に取り組む。学期中に作成した課題はポートフォリオにまとめ、学期末に提出する。	◎		○	○							
97	外国語科目群	Basic Writing Skills II	2	必修	○	○			Basic Writing Skills IIは、Basic Writing Skills Iで学んだ基礎をふまえ、複数のパラグラフからなる文章を書く力を養う。授業ではテーマに沿った読書や文法を学び、十分に根拠を示した段落を作成し、文章全体の構成や流れを意識しながら、より長くまとまりのあるライティングに取り組む。学期中に作成した課題はポートフォリオにまとめ、学期末に提出する。	◎		○	○							
98	外国語科目群	Intermediate Practical Discussion Skills I	2	必修	○	○			基礎で学んだ力を踏まえ、中級レベルの学生がスピーキング・会話・ディスカッション能力をさらに高めることを目的とする。SDGsに関連するテーマを扱い、関連読書や会話ストラテジーを学びながら英語での意見交換を行う。ペアや少人数グループでのやり取りを通して継続的に発話を練習し、流暢さ、表現力と理解力を伸ばす。履修後にはスピーキング、ディスカッション、リスニングに一層の自信を持てるようになる。	◎		○	○							
99	外国語科目群	Intermediate Practical Discussion Skills II	2	必修	○	○			Intermediate Practical Discussion Skills IIは、前科目をふまえた中級レベルの科目であり、SDGsに関するテーマを中心にスピーキング・ディスカッション力をさらに伸ばすことを目的とする。会話の流暢さやストラテジーを学び、有用な読書を増やしながら実践力を高める。ペアや少人数グループで練習し、履修後にはディスカッションとリスニングに自信を持てるようになる。	◎			○	○						
100	外国語科目群	Intermediate Writing Skills I	2	選択		○			Intermediate Writing Skills IではBasic Writing Skills I・IIで身につけた知識とスキルを基礎とし、幅広く刺激的なトピックを通してライティング力を伸ばす。複数のパラグラフをまとめて書き上げ、自分のアイデアと創造性を反映させながら、パラグラフ・ライティングの原則とプロセスを学ぶ。学期中に作成した文章はポートフォリオとしてまとめ、学期末に提出する。	◎			○	○						

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
101	外国語科目群	Intermediate Writing Skills II	2	選択		○			Intermediate Writing Skills IIは、前科目で培ったライティング力をさらに発展させる継続科目とする。学生はより幅広いトピックに取り組み、複数のパラグラフを統合してまとまりのあるテキストを作成し、構成やつながりを工夫しながら自分の考えを論理的かつ創造的に表現する。学期中に書きためた文章をポートフォリオに整理し、最終課題として提出する。	◎		○	○							
102	外国語科目群	Intermediate Reading Skills I	2	選択		○			この科目では、雑誌や新聞のテキストを読み、関心の高い問題を探究し、読み物の内容やトピックに関連するディスカッション活動に参加する。それにより、英語の語彙を増やし、単語の部分とその意味を認識できるようにし、段落構造の理解を深め、文脈の中で意味をより適切に推測する。その方法を示すことにより、読解力を向上させる。	◎		○	○							
103	外国語科目群	Intermediate Reading Skills II	2	選択		○			この科目では、雑誌や新聞のテキストを読み、関心の高い問題を探究し、読み物の内容やトピックに関連するディスカッション活動に参加する。それにより、英語の語彙を増やし、単語の部分とその意味を認識できるようにし、段落構造の理解を深め、文脈の中で意味をより適切に推測する。その方法を示すことにより、読解力を向上させる。	◎		○	○							
104	外国語科目群	Oral Fluency III	2	選択		○			スピーキング・スキルとクリティカル・シンキング・スキルを向上させるために、重要な社会問題に関する文章を読み置きし、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどのアクティビティに参加する。それにより、その問題の専門用語や基礎知識を獲得しつづ、それに関する人々の意見とその理由を特定する訓練を行う。	◎		○	○							
105	外国語科目群	Oral Fluency IV	2	選択		○			スピーキング・スキルとクリティカル・シンキング・スキルを向上させるために、重要な社会問題に関する文章を読み置きし、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどのアクティビティに参加する。それにより、その問題の専門用語や基礎知識を獲得しつづ、それに関する人々の意見とその理由を特定する訓練を行う。	◎		○	○							
106	外国語科目群	Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues A	1	選択		○			本講義は英語のみで行われ、多くの留学生が参加する多文化的な授業とする。異文化コミュニケーション研究の意義、文化とコミュニケーションの定義、言語的・非言語的課題を扱う。理論の学習に加え、指定文献、クラス内でのディスカッションや多様な活動を通して、心理学的および社会的要因を考察し、異文化理解、批判的思考、学習への関心を深める。	◎		○	○							
107	外国語科目群	Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues B	1	選択		○			本講義は英語のみで行われ、多くの留学生が参加する多文化的な授業とする。文化・文脈・コミュニケーションと権力の基礎を振り返る。その上で、異文化間関係、コンフリクトマネジメントと解決、平和構築といった課題を扱い、理論の検討に加え、文献読解やクラス内のディスカッションと多様な活動を通して知識を理解を深め、批判的思考と実践力を養う。	◎		○	○							
108	外国語科目群	Advanced Discussion Skills	1	選択		○			Advanced Discussion Skillsは、国際的視点からユートピアおよびディストピア文学を扱い、その重要な概念やテーマを特定し、日本および世界にどのように反映されているかを考察する。学生は授業や課題文献を通じて、提示された問題について批判的に思考し、積極的に議論し、明確に文章化する能力を養う。	◎		○	○							
109	外国語科目群	Advanced Reading Skills	1	選択		○			英語をより深く読む方法と、英語のテキストをより効果的に理解する方法を身につけるために、さまざまな種類の読書タスクを課し、読書の経験や提案を共有させたり、その内容を批判させたりするとともに、新たに獲得したリーディングのスキルおよびストラテジースと戦略をどのように使用するかにについて、ライティングならびにディスカッションさせる。	◎		○	○							
110	外国語科目群	Spoken Business English	2	選択		○			Spoken Business Englishの主な目的は、学習者に実用的なコミュニケーション能力を身につけさせることである。特に職場で英語を使用する必要がある人を対象とし、日常的および実務的な目的に応じた表現や語彙に重点を置く。多様な場面で適切かつ効果的に意思疎通を行える力を育成することを目指す。	◎		○	○							
111	外国語科目群	中国語I	2	選択		○			初學者を対象とし、中国語の基本的な発音、語彙、文法項目、会話、練習問題等に取り組み、中国語の発音（ピンイン）と表記を重点的に学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力を養う。毎回の授業で繰り返し発音練習を行い、基礎文法に関する理解を深め、会話練習を重ねることで、正確な発音と基礎的な表現力を着実に身につける。	◎		○	○							
112	外国語科目群	中国語II	2	選択		○			中国語Iを履修した学生を対象とし、中国語の発音、語彙、文法項目、会話、練習問題を通じて学習を深める。基礎的な中国語の文法を学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力をより強固にすることを目指す。さらに日常生活において頻出する会話表現を積極的に取り入れ、実践的なコミュニケーション能力を養成する。また、中国語検定試験対策の指導を行う。	◎		○	○							
113	外国語科目群	中国語III	2	選択		○			中国語IIを履修した学生を対象とする。中国語I・IIで習得した基礎的な単語や文法知識を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、日常生活に頻出する会話表現を繰り返し練習することによって、外資よく中国語の運用力、コミュニケーション力を向上させることを目標とする。授業終了時点で中国語検定準4級あるいは4級の受験レベルに到達することを目指す。	◎		○	○							
114	外国語科目群	中国語IV	2	選択		○			中国語IIIを履修した学生を対象とする。これまでで習得した語彙や文法を復習しつづ、新しい表現や文型を段階的に学び、日常生活や学習・仕事の場面で実際に中国語を運用できる会話力を伸ばすことを目標とする。実践的な会話練習やロールプレイ、リスニング活動に加え、簡単な作文の練習も取り入れ、聞く・話す・読む・書くの四技能をバランスよく向上させる。	◎		○	○							
115	外国語科目群	韓国語I	2	選択		○			ハンガルの仕組みや基礎的な文法事項を理解し、自己紹介や挨拶表現、趣味や居場所など身近な話題について、簡単な会話や短い作文を行う力を養う。授業では繰り返し練習を通して発音や表現に慣れ、基礎的なコミュニケーション能力を培うことを目標とする。	◎		○	○							
116	外国語科目群	韓国語II	2	選択		○			「韓国語I」を履修した学生を対象とし、そこで学んだ内容を確実に復習した上で、さらに多様な表現や文法事項を習得する。授業では実際の会話練習や文章作成を通じて運用力を高め、より幅広い場面において適切にコミュニケーションを行える基礎を築くことを目標とする。	◎		○	○							
117	外国語科目群	韓国語III	2	選択		○			「韓国語I」「韓国語II」で学んだ内容を復習しつつ活用力を高め、基本語彙と文法をより意かに使いこなすことを目指す。授業では多様な場面での会話や作文を通じて表現力を伸ばし、韓国語で自己表現を図る力を養う。また、ハンガル能力検定4級以上の合格を一つの目標として学習を進める。	◎		○	○							
118	外国語科目群	韓国語IV	2	選択		○			ハンガル能力検定3級またはTOPIK3級以上の合格を一つの目標とし、中級レベルの韓国語能力を養成する。授業では身近な話題について支障なく会話や作文を行う力を確実にし、その上でより複雑な社会的場面にも対応できる表現力を育てる。さらに辞書を用いながら新聞記事や文学作品を読解し、ニュース番組を理解する力を培うことを目指す。	◎		○	○							
119	外国語科目群	ドイツ語I	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（文タイプと動詞の位置・否定文・平叙文・疑問文・人称代名詞・動詞の現在人称変化・sein, haben・名詞の性・名格変化・人称代名格変化）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。	◎		○	○							
120	外国語科目群	ドイツ語II	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（動詞の規則変化・名詞の格変化・代名詞の格変化の復習に続き、不規則動詞の現在人称変化・名詞の複数形・否定疑問・名詞の2格、3格）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。	◎		○	○							
121	外国語科目群	ドイツ語III	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（zu不定詞、形容詞の原級、比較級、最上級、動詞の3基本形、過去形、現在完了）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせてドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。	◎		○	○							
122	外国語科目群	ドイツ語IV	2	選択		○			この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（zu不定詞、形容詞の原級、比較級、最上級、動詞の3基本形、過去形、現在完了）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。	◎		○	○							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10
123	外国語科目群	フランス語I	2	選択		○			この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象としている。基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。	◎		○	○						
124	外国語科目群	フランス語II	2	選択		○			本科目はフランス語を修得した学生のみ履修できる。基本的なフランス語力をさらに上げ、深める意欲を持った学生のためのコースである。引き続き、基本的な語彙と文法を習得することを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を引き続き養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。	◎		○	○						
125	外国語科目群	フランス語III	2	選択		○			フランス語の発語・作文能力を個人的な出来事以外のことと表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。	◎		○	○						
126	外国語科目群	フランス語IV	2	選択		○			フランス語の発語・作文能力を個人的な出来事以外のことと表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。	◎		○	○						
127	外国語科目群	スペイン語I	2	選択		○			This is an introduction to Spanish language fundamentals. Students learn basic vocabulary, present tense verbs, and essential grammar structures. Focus on simple conversations, greetings, family, numbers, and daily activities. No prior Spanish knowledge required. Prepares foundation for continued study.	◎		○	○						
128	外国語科目群	スペイン語II	2	選択		○			This builds upon Spanish I foundations. Students expand vocabulary and learn irregular verb conjugations in the present tense. Emphasis on pronunciation and basic listening comprehension. Increased emphasis on speaking and listening skills through interactive exercises and basic conversations about familiar topics.	◎		○	○						
129	外国語科目群	スペイン語III	2	選択		○			This develops lower-intermediate communication skills. Students improve their ability with verb conjugation, and expanded vocabulary covers education, work, health, and social issues. Introduction to reading comprehension with authentic materials. Prepares students for more nuanced language proficiency and cultural understanding.	◎		○	○						
130	外国語科目群	スペイン語IV	2	選択		○			Comprehensive preparation for DELE A1 certification and study abroad readiness. Intensive practice in all four skills: speaking, listening, reading, writing. Covers cultural competency, practical communication for travel and daily life in Spanish-speaking countries. Meets CEFR A1 descriptors for basic proficiency.	◎		○	○						
131	外国語科目群	ハンガリー語I	2	選択		○			初めてハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。	◎		○	○						
132	外国語科目群	ハンガリー語II	2	選択		○			「ハンガリー語II」に続きハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。	◎		○	○						
133	外国語科目群	ハンガリー語III	2	選択		○			インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。	◎		○	○						
134	外国語科目群	ハンガリー語IV	2	選択		○		○	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。	◎		○	○						
135	外国語科目群	ポーランド語I	2	選択		○			本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力も紹介する。	◎									
136	外国語科目群	ポーランド語II				○			本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのビジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介もしたい。	◎		○	○						
137	外国語科目群	ポーランド語III				○			初級文法を復習しながら中級の学習を進める。特に会話能力と聞き取り力を注ぐ。ポーランド人一家の日常を題材としている"Uczmy sie polskiego"の文法を解説し、実用的表現を身につける。簡単な受け答えだけでなく、自分の意見や考えを伝えられるようにする。模範教材も用いる。そのなかで表現される歴史的状況、ものの考え方や文化的な側面を解説し、ポーランドという国の理解を深めていく。	◎		○	○						
138	外国語科目群	ポーランド語IV	2	選択		○			ポーランド語という言語の入門的授業として、ポーランド語の文法の基礎を学ぶ。文法だけに集中せず、発音にも細心の注意を払い、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかで年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要な不可欠な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単に実用的な会話表現をマスターする。	◎		○	○						
139	外国語科目群	チェコ語I	2	選択		○			チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する。話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いつながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	◎		○	○						
140	外国語科目群	チェコ語II	2	選択		○			正しい発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する。話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いつながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	◎		○	○						
141	外国語科目群	チェコ語III	2	選択		○			今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げること努める。徐々に読解力も身に付ける。チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。また、模範教材を使いながら、チェコの文化、音楽、アニメ等について学び、さらにチェコについての知識も深める。	◎		○	○						

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の理解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

実習 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
142	外国語科目群	チェコ語Ⅳ	2	選択		○			これまでに習得した文法を使用し、簡単な文章を練習する。さらに語彙を広げ、日常表現を覚え、会話を練習し、会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることが本授業の目標である。終了時に簡単な会話ができるように授業を進める。また、授業では視聴覚教材を使いながら、チェコの文化、音楽、アニメ等について学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。	◎		○	○							
143	外国語科目群	日本語Ⅰ	2	選択		○			この授業は、日本文化や社会への理解を深めながら、日本語による実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。日常生活やニュースなどを題材に、生の日本語を読み、聞き、話し、書く活動を通じて、各回のCan-do目標を達成する。すべてのCan-doを達成することで、留学生活をより充実させる力を身につける。	◎	○	○								
144	外国語科目群	日本語Ⅱ	2	選択		○			この授業は「日本語Ⅰ」に続き、日本での留学生活に必要な日本文化や社会への理解をさらに深めながら、日本語の実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。初対面、食文化、音楽、旅行などの社会文化をテーマに、生の日本語を使って4技能を向上させる活動を行い、各回のCan-do目標の達成を目指す。特に話す力（会話・読話）の向上に重点を置き、自分の意思や考えを説明し、その理由を述べる力を育てる。	◎	○	○								
145	外国語科目群	統合日本語Ⅰ	2	選択		○			この授業では、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。	◎	○	○								
146	外国語科目群	統合日本語Ⅱ	2	選択		○			この授業では、「統合日本語Ⅰ」に続き、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。	◎	○	○								
147	外国語科目群	日本語アカデミックライティング	2	選択		○			この授業は、アカデミックなライティング力を養うことを目的とする。日本の大学における一般的な日本語のレポートの書き方を学びながら、テーマについて考え、それをレポートにまとめる練習を行う。まず自分の関心に合わせてテーマを選び、必要な調査を行い、調べたことをもとに考察し、1つのレポートを完成させる。大学のレポートに求められる論理の立て方、資料の集め方、引用の方法も学ぶ。	◎	○	○								
148	外国語科目群	日本語アカデミックスピーキング	2	選択		○			この授業は、大学で求められるアカデミックなスピーキング力を養うことを目的とする。自分の考えをスライドを用いて口頭で発表する力を身につけるため、発表テーマの設定、考察や議論の構成、スライドと原稿の作成、発表時の話し方までを段階的に学ぶ。授業では、発表準備と練習を重ねながら、論理的に伝える力と表現力を高める。大学生として必要な発信力を育成し、主体的に意見を述べる力を養う。	◎	○	○								
149	外国語科目群	社会と文化の日本語A	2	選択		○			この授業は、社会や文化に関する題材を通じて日本語の運用力を高めることを目的とする。新聞や雑誌の記事を精読・速読し、読書や文法を習得しながら社会的テーマを理解する。映像作品や漫画を用いた議論や発表で表現力を養い、科学技術に関する情報を扱うことで論理的に説明する力を育成する。読解・議論・論文作成を柱とし、4技能を総合的に伸ばすことを目標とする。	◎	○	○								
150	外国語科目群	社会と文化の日本語B	2	選択		○			この授業は、日本の社会や文化に関する映像や動画を題材に、日本語の運用能力を高めることを目的とする。授業では、映像作品から表現や読書や学び、ペアワークやグループワークを通じて議論や発表を行う。批判的思考力や問題解決能力を鍛え、他者の意見を理解しながら自分の考えを伝える力も養う。これらの活動を通じて、社会や文化を理解しつつ積極的コミュニケーションを取れる日本語力を身につけることを目標とする。	◎	○	○								
151	外国語科目群	日本語Ⅲ	2	選択		○			この授業は、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、「日本語Ⅱ」に続き、学部科目につながる日本語力の向上を目的とする。読む・聞く・書く・話すの4技能を通じて、文法・読解・聴解・読書・文書を書合的に学び、学んだ知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。特に話す力とディスカッション力の向上に重点を置き、ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、思考力と表現力を高める。	◎	○	○								
152	外国語科目群	統合日本語Ⅲ	2	選択		○			この授業は、「統合日本語Ⅱ」に続き、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、内容を通じて4技能（読む・聞く・書く・話す）を統合的に高めることを目的とする。SDGsや日本文化などを題材に、言語知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、批判的に考える力を育てる。探究的な学びを重視し、発表や議論を通じて思考を深め、学びの成果をまとめる。	◎	○	○								
153	外国語科目群	専門日本語(ホテル・観光)	2	選択		○			この授業は、将来接客業に関わりたい学生を対象とし、ホテル・観光業における接客コミュニケーション、マナー、非言語行動を学ぶ。空港や観光名所などの場面を想定し、観光ガイドが使う日本語表現を習得する。学習者は観光情報を自ら調べ、整理し、自分の言葉で業場に述べたり議論したりする中で、専門語彙や表現力を身につける。日本のおもてなしを理解し、実践できる力を養うことを目標とする。	◎	○	○								
154	外国語科目群	専門日本語(異文化コミュニケーション)	2	選択		○			この授業は、文化背景の異なる人々とのコミュニケーションについて学び、異文化理解に必要な態度や心構えを養うことを目的とする。異文化コミュニケーションの理論とエクササイズを通じて、自文化と他文化に関する情報を学び、自己気づきを深める。ディスカッションや活動を通して、開かれた心と積極的な参加姿勢を育てる。文化やコミュニケーションの過程を問い直しながら、日本語の4技能も高める。	◎	○	○								
155	外国語科目群	ビジネス日本語Ⅰ	2	選択		○			この授業は、日本の企業文化への理解と、ビジネス場面で求められる日本語コミュニケーション力の向上を目的とする。敬意表現や依頼・謝罪・断りなどの機能表現、会話文、前置き表現、語彙、文章の読み書きを含む4技能を総合的に学ぶ。ケーススタディやディスカッションを通じて、聴話力・表現力を高め、論理的に意見を述べる力を養う。実践的な活動を重視し、積極的な参加が求められる。	◎	○	○								
156	外国語科目群	ビジネス日本語Ⅱ	2	選択		○			この授業は、「ビジネス日本語Ⅰ」で培った基礎力をもとに、グローバル人材として活躍するための知識と技法を実践的に身につける。将来、日本企業や海外の日系企業への就職を希望する学生が、ビジネスの現場で通用する日本語能力、社会人基礎力、異文化調整能力を総合的に修得する。アポイント取得、会議参加、クレーム対応、交渉などの場面を扱い、語彙・敬意表現を学ぶ。協働活動を通じて企業文化の理解と実践力を高める。	◎	○	○								
157	外国語科目群	キャリア日本語(就職)	2	選択		○			この授業は、将来日本で働くことを希望する学生を対象とし、社会人として必要な日本語コミュニケーション力と社会人基礎力を養うことを目的とする。会社内の会話文やケーススタディを通じてビジネス場面での対応力を高め、履歴書や面接、企業分析など就職活動に必要な日本語表現を学ぶ。毎回のスピーチやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、自分の考えを論理的に伝える力と協働的に学び合う姿勢を育てる。	◎	○	○								
158	外国語科目群	キャリア日本語(進学)	2	選択		○			この授業は、大学院進学を希望する学生を対象とし、進学に必要なスキルと論文作成力を体系的に身につけることを目的とする。研究計画書や小論文、学術レポートの書き方を学び、参考文献リストや引用、概要の整理方法も習得する。これまでの知識を個人化し、専門分野について語り、論じる力を育てる。大学院の探し方や資料の取り寄せ方法なども扱い、読む・書く・話す・聞くの4技能を通じて、アカデミックな表現力を高める。	◎	○	○								

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10
159	外国語科目群	Fundamentals of Japanese A	4	選択		○			この授業は、日本語を初めて学ぶ学習者を対象とし、日本で生活するための基本的なコミュニケーション力を身につけることを目的とする。自己紹介、買い物、時間、場所、予定などの場面を想定し、語彙・文法・発音・イントネーションを学ぶ。動詞や形容詞、助詞の使い方を理解し、初級文法の運用力を養う。自然な速さの日本語に触れながら、聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく習得し、聞き取りと発話の基礎力を高める。	◎	○	○							
160	外国語科目群	Fundamentals of Japanese B	4	選択		○			この授業は、F&J Aを終えた初級の学習者が、より自然な日本語を使えるようになることを目指す科目である。買い物、計画、体調の説明、道路の相談、旅行先と比較など、日常の具体的な場面を通して、カジュアルな言い回しを学ぶ。カジュアルスピーチを使った自然な会話表現に慣れ、自分の考えや気持ちを手順に伝える力を養う。発表やディスカッションを通じて、口頭と筆記の両面で表現力を高める。	◎	○	○							
161	外国語科目群	Fundamentals of Japanese C	4	選択		○			この授業は、初級後半として、より複雑な文法や語彙を学び、自然な日本語運用力を高めることを目的とする。アルバイト、旅行、忘れ物、相談など学生の日常に近い場面を通じて、カジュアルスピーチの表現に慣れ、自分の考えや経験を適切に伝える力を養う。読解・聴解を通じて情報を整理し、発表や筆記活動を通して発信力を高める。状況に応じた自然な言い回しを身につけ、実践的な会話力を伸ばす。	◎	○	○							
162	外国語科目群	Fundamentals of Japanese D	4	選択		○			この授業では、初級から中級へ進むための基礎力を固めることを目的とする。買い物で店員に丁寧に質問する、学校制度について説明する、事件の内容を要約する、別れの場面で気持ち伝えるなど、協働的で複雑なテーマを扱う。敬語・使役・受身・条件・可能などの文法を学び、論理的で丁寧な表現を身につける。読解・聴解の難度も高まり、情報の整理や意見の発表を通じて、実践的な運用力を養う。	◎	○	○							
163	外国語科目群	JLPT Preparation	2	選択		○			この授業は、日本語能力試験N2からN4の言語運用力を目指す指定学生・交換留学生向けの科目である。授業では、日本語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を鍛え、履修学生のレベルに応じて指導を行う。試験に必要な知識や技能を習得するだけでなく、生活や学習場面でも活用できる日本語運用力を養うことを目的とする。さらに、学んだ内容を活用し、自らの考えや経験を発信する表現力を高める活動を取り入れる。	◎	○	○							
164	外国語科目群	Intermediate Japanese Skills A	4	選択		○			この授業では、中級レベルの日本語運用力を高めるために、紹介・あいさつ・留学・ホームステイなどの場面を通じて、自己表現や人間関係の築き方を学ぶ。依頼や許可、丁寧な言い回しなどを含む文法項目を習得し、実際の生活や留学先で役立つ表現力を養う。会話・読み物・聞き取り・作文を通じて、4技能を総合的に伸ばし、日本事情への理解も深める。初級から中級への移行を支える基礎力を固める。	◎	○	○							
165	外国語科目群	Intermediate Japanese Skills B	4	選択		○			この授業では、大学生活やレストランでの注文、レクリエーション活動、アルバイト探しなど、学習者が実際に経験する場面を通じて、質問・依頼・引用・談い方・振り方などの表現を学ぶ。敬語や短形、後文の運用力を高めながら、聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に伸ばす。実践的な会話力と読解力を養い、自分の考えを適切に伝える力を育てることで、中級レベルへの移行を支える。	◎	○	○							
166	外国語科目群	Intermediate Japanese Skills C	4	選択		○			この授業では、乗り物のやり取り、旅行の予約、ホストファミリーとの問題など、日常生活で直面する場面を通じて、自然な日本語表現を学ぶ。あげる・もらうの使い分け、切符の購入、文句の言い方や謝り方など、実践的なやり取りに必要な語彙と文法を習得する。聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に伸ばし、自分の気持ちや意見を丁寧に伝える力を養うことで、中級レベルへの移行を支える。	◎	○	○							
167	外国語科目群	Intermediate Japanese Skills D	4	選択		○			この授業では、病気の症状を伝える、過去の日本語学習体験を語る、日本社会に対する意見を述べる、インタビューを通じて情報を引き出すなど、複雑な場面での表現力を高める。使役・受身・敬語・協働的な語彙を含む文法を学び、論理的かつ丁寧な日本語運用力を養う。聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に伸ばし、自分の考えを整理し、適切に伝える力を育てることで、上級レベルへの移行を支える。	◎	○	○							
168	外国語科目群	日本語(言語知識)	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。文字・語彙・文法に関する知識を習得し、毎回の小テストを通じて定着を図る。問題解答の方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を身につける。試験対策と実践力の両面から日本語力を高めることを目的とする。			○		◎		○			
169	外国語科目群	日本語(読解・聴解)	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。読解・聴解に関する問題の解答方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を高める。試験対策と実践力の両面から、日本語力を総合的に伸ばすことを目的とする。					◎		○			
170	外国語科目群	日本語A	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に口頭産出に重点を置き、話す力の向上を目的とする。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得し、学んだ知識を実際に使える力へとつなげる。発表やディスカッションを通じて、表現力と運用力を高める。			○		◎		○			
171	外国語科目群	日本語B	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に文法に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得する。様々なテーマを通じて、自分の考えを形成し、仲間との対話や振り返りを通して表現力を高める。発表やディスカッションも行い、実践的な運用力を養う。					◎		○			
172	外国語科目群	日本語C	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に文字・語彙に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。N1へのステップアップも視野に入れる。学んだ知識を活用し、発表やディスカッションを通じて表現力を高め、意見をレポートにまとめる力を養う。			○		◎		○			
173	外国語科目群	日本語D	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に聴解に重点を置き、自然なスピードの会話やニュースの聞き、話の流れや要旨、登場人物の関係を理解する力を養う。聴解を中心に4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。学んだ知識を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめることで、実践的な運用力を高める。					◎		○			
174	外国語科目群	日本語E	2	自由		○			この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に読解に重点を置き、文章の構造や要点を的確に把握する力を養う。文法・読解・文字・語彙も含めて総合的に学び、日本語力の底上げを図る。4技能をバランスよく習得し、知識を実際に使える力へとつなげる。学んだ内容を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめる。					◎		○			
175	キャリア形成科目群	基礎ゼミA	1	選択		○			「アカデミック・スキルズ」で学んだ自主学習、大学生としての生活、大学の授業、資料調査、批判的読解、ライティング、発展的学習などについて復習し、補足事項や発展的内容を学ぶ。「アカデミック・スキルズ」ほか大学の学習および生活におけるさまざまなテーマについて、アドバイザー教員との質疑応答、教員およびアドバイザーグループでのディスカッションを行う。				○	◎		○			
176	キャリア形成科目群	基礎ゼミB	2	選択		○			この授業は、大学教育における継続的・能動的な学習と、口頭発表やレポート作成に必要な知識・技術を習得する。具体的には以下の知識・技術を学ぶ。 (1) 本や記事などを批判的に読める。(2) 口頭発表において、レジュメやパワーポイントを使うことができる。(3) 適切な方法で、レポートを書くことができる。(4) 自分のキャリアプランを能動的に考え、2年次以降の学びの計画を立てることができる。					◎	◎	○			

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

授業掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
177	キャリア形成科目群	キャリア形成演習	2	選択		○			キャリア形成のための主体的・自律的な学びを実現できるように、必要な基礎知識を修得するとともに、必要な情報を適切な方法で収集および活用し、柔軟な思考力や判断力をもって行動する力を養うことを目標とする。この授業の履修を通じて、卒業後の進路について具体的な目標を設定し、計画的に就職活動を進められるよう、前半は就職活動における最小限のトレーニング、後半はSPI問題等の取り組み等を予定している。			◎	○							
178	キャリア形成科目群	キャリア・デザイン・インターンシップ	2	選択		○			Students attend a short-term internship at Chubu International Airport in Nagoya. While at the airport, students learn about the airport operations and more specially the role of ground staff.			○			○	◎				
179	キャリア形成科目群	ビジネス入門	2	選択					本講義の目的は、主に営利企業を中心として、ビジネス社会の仕組み、企業の特徴、そこでのビジネスの進め方などを理解することにある。併せて、将来社会人となった場合に不可欠なビジネスの知識も身に付ける。ビジネスの世界への入門講義として、企業経営の基礎を学ぶ。履修者が、理論とケースディスカッションを通じて企業のグローバル展開や事業分析、そしてスタートアップなどに理解と関心を深めることを目指す。		○	◎	○							
180	キャリア形成科目群	航空・空港キャリア概論A	2	選択					主にエアラインビジネスの基礎である空港旅客業務やオペレーション業務（運航・整備等）などのフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料、データ、映像などに基づき解説する。次いで、航空ビジネスモデル（アライアンス・ネットワーク戦略・顧客戦略など）を通して航空産業の概要やその政策を見通せる基礎力を養う。			◎	○							
181	キャリア形成科目群	航空・空港キャリア概論B	2	選択					主にエアラインビジネスの基礎である空港業務やオペレーション業務（運航管理・整備等）のフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料にもとづき解説する。直しいグローバル競争にさらされている航空業界のビジネスモデル（アライアンス、ネットワーク、マイレージ、顧客戦略など）の基礎的知識の理解を深めると併せて、今後の航空産業や将来の政策を見通せる基礎力を養う。			◎	○							
182	キャリア形成科目群	観光ビジネス基礎	2	選択					この授業では、観光ビジネスの現場について学び、観光ビジネスが提供する経済的価値と社会的価値を学ぶ。宿泊業、交通運輸業、外食産業、MICE施設などの分野に關して、第一線で活躍する人々について学び、理解を深める。また、人口減少、観光公害、感染症など様々な社会課題の影響や地方創生、観光振興の取り組み、社会インフラとして果たす役割などを、現場の視点で学ぶことに重点を置く。		○	◎	○							
183	専門基礎科目群	異文化理解	2	選択	○				多文化・多言語、多民族社会の在り方、異文化間理解に関する様々な課題について学び、異文化を理解する知識と方法を身につけることを目標とする。近年外国労働者の受け入れを容易にした日本は、多民族多言語多文化社会に発展しつつあり、ホスト社会とマイノリティ・ディアスポラとの関係のあり方について理解することを目標とする。この講義では、日本や他の世界の文化を例に挙げながら、異文化理解に必要な心構えを学ぶ。		○	○	◎							
184	専門基礎科目群	世界の中の日本	2	選択					社会を構成するさまざまな要素と、日本の現代文化や社会がどのように一般的にステレオタイプ化されているかを考察する。さらに、教育制度や法制度を含む社会制度を詳しく見ていき、それらが存在する社会からどのような影響を受け、また社会の発展に大きな影響を与えるのかを検討する。最後に、グローバル化が生活のあらゆる側面に及ぶ中で、すべての社会が直面する今後の課題について考える。		◎	○	○							
185	専門基礎科目群	国際コミュニケーション入門	2	選択	○	○			グローバルな視点からコミュニケーションに関する様々な基本課題について考察する機会を与える。議論のトピックは、1.ステレオタイプ、2.差別、3.誤解、4.コミュニケーションスタイル、5.カルチャーショック、6.言語能力、である。ディスカッション能力、プレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力全般の向上を目指す。	○		◎								
186	専門基礎科目群	留学プランニング	2	選択	○	○			本授業では、まず留学する意味や目的について学習し、続いて留学前の準備、留学希望理由書の作成、成績証明書の確認、留学先での過ごし方について学ぶ。最後に帰国後に留学した成果を継続的に維持する方法について考える。授業では、講義だけではなく、留学先について学生が調べ、授業でプレゼンテーションし、議論していく。			◎		○						
187	専門基礎科目群	国際日本学	2	選択	○				海外における日本に対する関心と、日本学の大きな流れとをつかむために、最初に、日本に関する情報の量と広がりを見直す。そのうえで、それぞれの国の歴史的背景や日本との関係、日本における諸国間の相互関係や相互影響などに注目しつつ、内と外の両方の視点があってこそ生み出された日本学の研究成果を個別に検討する。		◎	○	○							
188	専門基礎科目群	日本の歴史A	2	選択					日本の古代から近世までを概観し、各時代において重要と思われるテーマごとに解説する。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。歴史学においては史料を読み解くことが非常に重要になる。この講義では前近代の日本の歴史について解説するが、その際に、授業のなかで適宜歴史を語る史料も紹介する。		◎	○	○							
189	専門基礎科目群	日本の歴史B	2	選択					日本の近現代史の展開について、明治維新から平成までを概観する。様々な視点からの概観が可能だが、この講義では政治史を中心に解説する。適宜、文化や思想の歴史にも触れる。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。歴史学では史料を読み解くことが重要になる。本講義では近現代の日本史を概説するが、歴史を語る史料も適宜紹介する。		◎	○	○							
190	専門基礎科目群	社会学入門	2	選択					社会学は社会の仕組みと人々の生活体験を考える学問であり、個人と社会の関係や不平等、社会の安定と変化、日常生活を形づくる構造を学ぶ。さらに、階級、人種、ジェンダー、文化などの視点を用い、理論や調査方法を学びつつ、講義や討論、読書や映像を通して批判的思考を育てる。なお、Introduction to Sociologyはすべて英語で行い、社会学の専門知識がない学生を対象とする。			○	◎							
191	専門基礎科目群	経済学論A	2	選択					この講義では経済学の基礎的な知識の習得を目標としている。とりわけ現代の経済学にいたるまでの歴史的推移、市場メカニズムの内容、それを取り囲む政治制度などについて詳細に説明していきたい。現代社会を理解したいと思うとき、やはりその背景にある大きな流れをつかんでおく必要がある。市場経済とは何か、という問題からはじめ、各時代の重要な経済的な問題について概観する。			○	◎							
192	専門基礎科目群	経済学論B	2	選択					この講義では、経済学論Aで学んだ基礎的な経済学的な知識をもとに、マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、国際経済学といった専門に進むための基礎をさらに深めていく。この講義を受けることにより、さらなる専門の学びにスムーズに対応できると同時に、現実的な社会問題についての視座を獲得できるものとも考える。帝国主義の時代以降の経済的な問題について、各時代の特徴を概観し、現代の問題までを考察したい。			○	◎							
193	専門基礎科目群	ヨーロッパの社会と文化	2	選択	○				本授業の目標は、ヨーロッパの社会と文化について基本的な知識と理解を得ることである。授業では、ヨーロッパとはどの地域を指すかについて考え、中世がハプスブルク帝国の統治下に置かれた時代から現在までの歴史的背景について確認する。社会と文化の各テーマについて、履修者が開講しミニ・プレゼン（5～10分程度）を担当し、授業前に調べた内容を発表し、理解を含める。			○	◎							
194	専門基礎科目群	比較文化概論	2	選択					この授業では、「文化」がどのように定義、あるいは解釈されてきたかを近代と現代の異同を通して考える。人の移動が増加しグローバル化が進行する近現代世界において、西洋思想・文化との比較を通して生成・定義されてきた日本文化の姿を学び、文化がつねに歴史的に構築された複合的な存在であることを理解するのが目標である。			○	◎							
195	専門基礎科目群	文化人類学	2	選択	○	○			最初に、自分たちの日常を振り返り、文化の様々な側面について考察する。次に、異文化社会に属する人々と関わりて相互理解を際際するに生じる多様な問題を、文化人類学の理論や知見を用いて分析する。最後に、そのような関係構築・相互理解の方法として、民族誌的調査法を用いたフィールドワークの可能性を検討する。授業のなかでは、履修者が課題について考え、その生かす共有する機会を多く設ける。			○	◎							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
196	専門基礎科目群	外国史概説	2	選択					歴史を研究するとはどんな行為なのかについて考える。事実と史実と真実の違いはなにか。日本以外の地域の歴史、とりわけ東アジアの歴史のなかから、いくつかのテーマを選んで、人間の歩みにおける因果律について考察する。政治史を主としながらも、その裏にある、テクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。時事問題との関連にも触れていく。			○	◎							
197	専門基礎科目群	アメリカ文学概論	2	選択		○			多文化・多民族国家アメリカ独特の事象や問題を理解するとともに、原作の英文読解を通してさまざまな英語表現を身につけ、文学作品を解釈する力を高めるために、アメリカ文学の中から特定の作家を取り上げ、代表的な一つの作品を歴史や文化との関わりの中で捉える。時代背景、作家の伝記的事実を踏まえた上で、小説の原文の抜粋を講読し解釈する。			○	◎							
198	専門基礎科目群	近代イギリス文学	2	選択	○				19世紀後半から20世紀半ばにかけてのイギリスのミステリーと推理小説をその社会史的な文脈の中で探究する。アーサー・コナン・ドイルの「シャーロック・ホームズ」、アガサ・クリスティの「エルキュール・ポアロ」と「ミス・マープル」に焦点を当てる。英語で書かれた文学を学ぶことで、学生は英語で自己表現する能力を養い、英語が使われている国や地域の文化理解を深め、中学校・高校の英語授業に活かせる力を身につける。			○	◎							
199	専門基礎科目群	人文地理学	2	選択					人文地理学の理論と方法、人間生活、経済活動、現代的諸課題の分野について学ぶ。人文地理学の理論と方法では、地理学の科学としての展開や主要概念、研究の手法等について学ぶ。人間生活では、人間による環境認知や居住空間の構成等を、経済活動では、大分類された産業ごとにその地域的特色や空間構造を学ぶ。現代的諸課題については、移民や民族、不平等、環境破壊、自然災害等の問題への人文地理学からの取組を学ぶ。			○	◎							
200	専門科目群I	国際協力論	2	選択	○	○			「南」の国や地域について関心を持ち、格差や不平等、紛争とこども兵、児童労働や児童婚、女子教育など開発課題について理解を深め、それらが起きている背景を探っていく。またそれらの課題解決に向けて立ち向かう国際協力について学んでいく。多様な国際協力の担い手についても理解を深めながら、国際協力についてより体系的な理解を目指すとともに、実践へと結びつけていく。			◎								
201	専門科目群I	国際ボランティア論	2	選択					国際ボランティアの主な担い手はNGOだが、選考で選ばれたわけではない彼らには市民の代弁者としての正統性に疑問も抱けられる。正統性強化のために、NGOには自身の活動の意義・効果について学問的に説得力ある説明をすることが求められる。本授業は正統性強化という課題に着目し、NGO活動の意義・効果を社会科学【法学等】の観点から多角的に究明し、国際ボランティアのあり方について考察を深めることを目的とする。			◎								
202	専門科目群I	日本とアジア	2	選択	○				日本の発展はアジアと密接に関連している。本授業では、まず日本とアジアの関係を歴史的な流れの中で理解する。次に政治制度や経済発展を最近の主要事例を取り上げ、さまざまなメディアやコンテンツ資料を活用しながら比較し、現状を把握する。その過程で情報を批判的に分析・判断する力を養う。さらに東アジアにおける地域統合の可能性や課題を検討し、日本とアジアの未来的な共存共栄を展望することを目標とする。	◎		○								
203	専門科目群I	アジアの女性論	2	選択		○			この科目では、アジアのさまざまな国や地域を取り上げ、経済の発展段階がそれぞれ異なるだけでなく、社会や文化、宗教、言語や民族など実に多様であることを学ぶ。アジアの国や地域の暮らしや社会、文化や宗教、慣習などについて理解を深めるとともに、アジアの女性たちが置かれた状況について、ジェンダーの視点から学んでいく。	○		○	◎							
204	専門科目群I	日本とヨーロッパ	2	選択	○				本科目では、ヨーロッパと日本がどのように交流してきたのか、その歴史と現状を学ぶ。江戸時代から現在までの日本とヨーロッパの協定を文化史の観点から考える。また、ソフトウェア、文化外交、文化交流についても学ぶ。V4、ドイツ、スペイン、イタリア等は日本において自国文化と歴史のどの部分、ジャンル、テーマを発信しているか見ていく。文化外交で活用されるテーマ自体（例：絵本、アニメ、文学）について見ていく。	◎		○								
205	専門科目群I	日本と北米	2	選択	○				20世紀以降の日米関係の歴史を長期的視点にたって理解し、近年の日米関係の動向と展望を政治・経済的側面から説明できるようになることを目指す。現代の日米関係の起点を日米が地域大国として並び立った1920年代に求め、それから今日に至るまでの両国間の政治・経済関係の発展をたどることによって、日米関係が刻んできた歴史のリズムをとらえ、今後の日米関係をみつめる視座を得る。	◎		○								
206	専門科目群I	国際法	2	選択	○				「国際法」は主に国家間関係を規律する法だが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、多数の戦争を反省して人類が眠ってきた。国際平和のために必要不可欠なものである。本授業は、国際平和のためにどのような役割を果たしているのかという観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことを目的とする。国連を中心に国際社会の緊密化が進む中、国際法の関連範囲は多岐に及ぶが、その主たる分野を具体的に扱う。			◎								
207	専門科目群I	国際機構論	2	選択	○	○			国際機構の成り立ちと組織としての特徴を吟味しながら、国際機構が抱える問題を検討し、国際社会において国際機構が果たす役割とその限界について理解を深めるために、国際連合を中心としてさまざまな国際機構を取り上げる。本講義では条約を英語ないし日本語で熟読し、その設立の趣旨・特徴を理解する。また、時事約の問題も取り上げ、発表と討論を積極的に行う。			◎	○							
208	専門科目群I	国際経済学	2	選択					本科目では、国境をまたがる様々な商取引の現状とそのメカニズムを、基礎的な国際経済理論を用いて理解する事を目的とする。難解な数式は避け、できるだけ現地の社会と最新のデータと結びつけて簡潔に説明する予定である。日々のニュースや新聞記事の全てを精読みにするのではなく、事象の文化的背景・歴史的経緯を踏まえながら、正しい数字や適切な分析を自分で行える力を身につけることができるようになることが目標である。			◎	○							
209	専門科目群I	国際開発論	2	選択	○	○			この授業では、グローバル経済が進展するなか、「南」の国や地域の人々によって生産されているモノと、消費者である私たちとの見えないうええづらい壁がについて考える。サプライチェーン上で起きている諸問題点に着目し、現地の当事者の立場から解決策を探っていく。授業を通して、「南」の国や地域の開発状況をめぐる現状分析をおこない、複眼的なものを見方や考え方を身につける。			◎	○							
210	専門科目群I	開発と女性	2	選択		○			女性やジェンダーという概念が、国際開発や国際協力の枠組みの中でどのように捉えられてきたか、ジェンダーの視点に立った開発はなぜ重要なのかを考え、理解を深める。開発と女性（WID）やジェンダーと開発（GAD）、ジェンダー主流化、ジェンダー分析といった概念や手法を学び、ジェンダー課題とその解決策を考える。さらに日本が抱えるジェンダー課題を取り上げ、ジェンダー平等に向けたより体系的な理解と実践を目指す。			○	◎							
211	専門科目群I	国際関係論	2	選択	○				主要国家間の外交関係の歴史をたどることにより国際秩序の変遷を理解し、国際関係論を学ぶのに必要な基礎知識を習得することを目指す。近代から現代に至るまでの国際関係の米歴を現代国際関係の 이슈と関連させながら学ぶことによって、国際関係の基本用語・概念を把握し、今日の国際社会およびその課題がどのようにして形成されたかを理解する。			◎	○							
212	専門科目群I	アジア国際関係論	2	選択					まず、戦後アジアと冷戦の起源について学ぶ。次いで、西欧の東西対立とアジア各国の動向を歴史的に考察する。そして東南アジア諸国の独立過程を歴史的な流れから把握し、アメリカのベトナム戦争介入過程を解説する。また21世紀における東アジアの国際関係を考察する。なお本講義では、ドキュメンタリーや映画を通して、理解の促進を図る。	○		◎								
213	専門科目群I	ヨーロッパ地域文化研究	2	選択	○				19～20世紀のヨーロッパとくに中欧の文化と歴史的背景を知り、その特徴を理解することが目標である。中欧地域は近代以降、周辺の諸帝国の支配下に置かれ、国家としての独立を失った。第1次世界大戦後に独立したが、第2次世界大戦後には多くが社会主義国となり、さらに冷戦終結に伴う再度の体制転換を経験して現在に至る。この共通の歴史的背景のもと、西欧と異なる民族的文化的多様性に富む複雑な社会が形成された。			○	◎							

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1
- 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2
- 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4
- 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5
- 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の理解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6
- 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7
- 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10		
214	専門科目群I	アメリカ対外関係論	2	選択					アメリカ合衆国の対外政策がどのような仕組みに基づいて決定されてきたかを理解し、今後の国際政治のあり方を考える手がかりを得ることを目指す。アメリカ合衆国の対外政策決定過程にかかわる制度や機関、対外政策の歴史を概観することによって、アメリカ合衆国の対外政策を支える政治体制と統治機構の特徴、建国以来の歴史のなかで育まれてきた外交伝統を理解する。			◎	○								
215	専門科目群I	文化交流史(日本：アジア)	2	選択					日本列島と東アジア・東南アジア地域との文化交流の歴史の大概をテーマとし、歴史学の新しい成果も交えながら、理解することを目標とする。文化については狭義の文化だけではなく、政治、経済、および他の手段をもってする政治・経済の継続も含む。世界と日本の社会と文化も含む。古代における日本への文化の伝播、中世から近世にかけての貿易、その後における日本経由のアジア近代化について講義をする。		○	○	◎								
216	専門科目群I	文化交流史(日本：欧米)	2	選択					産業革命以降のヨーロッパの経済発展と人口変動に伴う文化交流史をテーマとする。人口変動に関する基礎的な概念や理論を踏まえたうえで、人口変動の背景やその結果としての文化変容について理解を深めることを課題とする。授業では主にテキストに沿ってスライドを用いながら授業を進め、具体的な事例については配布資料を用いながら理解を深める。		○	○	◎								
217	専門科目群I	日本文化論	2	選択	○	○			「日本人・日本文化論」のなかから、文化人類学・社会人類学者の2つの著作、すなわち、ルース・ベネディクト『南と刀』、中根千枝『タテ社会の人間関係』を取り上げ、そこでの主要な一般に流通されている日本人・日本文化に対するイメージや言説を批判的に検討し、そこから現代の日本社会における「日本（の）文化」について考察する。	◎			○								
218	専門科目群I	西洋美術	2	選択	○				西洋美術に関する基礎的知識をつけ、専門性の基礎となる能力を養うために、絵画を中心とした西洋美術について、ルネサンス期から20世紀までの主要な芸術家を取りあげ、その生涯と作品について、下記の計画に従って紹介する。なお、新着のニュースや話題、研究などを紹介するために授業の順序・内容を適宜入れ替えることがある。				○	◎							
219	専門科目群I	文化遺産	2	選択					まず、様々な民族誌的知見を理解するために必要な概念について学ぶ。次に先住民社会における「伝統の継承」に関する事例を検討し、文化を「遺産」として継承していくことについて考察を深めていく。さらに「世界遺産」の概念や制度を検討し、その中に含まれる多様な「遺産」の在り方について学んでいく。最後に「伝統」や「文化遺産」が現代社会やその未来に対して持ちうる意味や、それを維持し伝えていく意義について考察する。				○	◎							
220	専門科目群I	Topics in Culture and Society in Japan	2	選択		○			16世紀以来、外国人は日本文化の多くの独特な側面を研究・分析してきたが、日本人の思考や行動様式を理解することは依然として困難である。本講義では、前近代から近代に至る主要な日本の思想を探究するとともに、現代日本人の特徴的な行動様式を考察する。授業では講義、ディスカッション、課外活動、学生による発表を組み合わせ、テーマに関する多面的な体得知識を獲得する。前もって課題文献が配布され、映像教材も使用する。	◎			○	○							
221	専門科目群I	Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択					この授業は、日本の現代文化を学術的に探究する入門的な科目である。歴史的背景や芸術家、制度の枠組みを概観しつつ、音楽・漫画・アニメ・ゲームなどを対象に、その国際的影響力を分析する。授業は英語で行われるため英語運用能力が求められるが、日本語作品の一部も教材として参照する。授業では、メディア産業の分析を多角的に行う。またゲーム産業、音楽市場を取り上げ、現代日本文化の多層的展開を批判的に考察する。		◎		○	○							
222	専門科目群II	言語学概論	2	選択	○				まずコミュニケーションの側面から言語の記号としての性質と、言語の諸側面を考える。その後、音声学と音韻論では、言語音の作り方と分類を中心に学ぶ。文法では、人称や時制、態など主な文法形式を扱う。意味論では、意味論の入門として、意味関係と多義語、類義語を実例から検討する。そしてコミュニケーションにおける言葉の機能と発話行為、発話の意味について考える。				○	◎							
223	専門科目群II	社会言語学	2	選択					社会言語学は、「言語」と「社会」の相互関係を総合的に研究の対象とする。日常的に生活する地域、階級、性別など様々な社会的要因との関係性で言語の多様性を見る。社会言語学の研究領域における主要なテーマに関して基礎的理解を深める。社会言語学についての概説から始め、様々なテーマについて考察を進める。それぞれのテーマごとに具体的な例をあげ、ディスカッションを通して理解を深める。					○	◎						
224	専門科目群II	言語学	2	選択	○				認知意味論と語用論の基本概念とその語例を学ぶ。認知意味論は、最初に認知意味論の考え方とカテゴリーについて学ぶ。その後、メタファー、メトニミー、シネクドキという意味の広がりをもたらす現象について例とともに考えていく。授業の後半は語用論で、主に発話行為とグライスの理論、ポライトネスを、日本語と英語の例をもとに考える。				○	◎							
225	専門科目群II	英語学概論A	2	選択					音声学（個々の音声の特徴・発音法、音が連続する場合に起こる様々な現象）、形態論（単語の内部構造・造語法）を取り上げ、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけたし、英語の仕組みを明らかにする。また、英語に関する興味深い言語事実も提示し、英語史（英語の歴史的背景、とりわけ発音や語彙、文法の歴史的な変化する過程）についても解説する。				○	◎							
226	専門科目群II	英語学概論B	2	選択					統語論（句の構造・文の構造）、意味論（単語の意味・文の意味）を扱い、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけたし、英語の仕組みを明らかにする。英語に関する興味深い言語事実も提示し、これまで学生が学んできた英文法の考え方を批判的に検証し、科学的な文法理論を紹介する。また、国際共通語としての英語の実現についても解説する。					○	◎						
227	専門科目群II	言語・非言語コミュニケーション論	2	選択	○	○			本授業では、特に非言語コミュニケーション（外見的特徴、身体動作、表情行動、視線行動、空間行動、接触行動、接触行動、文化的背景など様々な非言語的メッセージ）に関する現象・概念を概観し、実際のコミュニケーションの内幕・分析を行い、非言語コミュニケーションの重要性及び対人コミュニケーションの機能を明らかにする。				◎	○							
228	専門科目群II	第二言語習得論	2	選択			○		この科目は、日本語教育、英語教育をふまえて第二言語習得に関する基本的な理論とその応用について学ぶ。授業では第二言語習得の理論を学んだ上でディスカッションを中心に授業を進める。まず、我々は言語をどのように処理し記憶するのか、学ぶ。そして母語をどのように習得し、第二言語をどのように習得していくか概観する。特にクラッシュの5つの仮説について概観した後、母語の転移についてディスカッションしながら学ぶ。					○	◎						
229	専門科目群II	異文化間コミュニケーション論	2	選択	○	○			この授業では、グローバル化が進む社会や世界との関わりの中で、文化背景の異なる人々との円滑なコミュニケーションを行う力を育成することを旨とする。まず、異文化間コミュニケーションとは何かを理解し、西洋文化・東洋文化と比較しながら学んでいく。さらに英語が使われている国・地域の文化を通じて、表現力（言語と非言語）への理解を深め、言語教育の授業に資する知見を身に付ける。				◎								
230	専門科目群II	児童英語教授法I	2	選択		○			「児童英語教授法I」では、子どもに英語を教える際に必要な教授法や指導法を学ぶ。受講生はコミュニケーション活動を体験し、それが授業で扱う指導法とどう関連し適切かを検討する。各回では、教授法を学んだ上で子ども向けのゲームや活動に適用する。受講生は実践した理論や活動について課題を提出し、グループで活動を指導する実習や模擬授業を行う。履修にあたっては、TOEIC400点以上の英語力が望まれる。					○	○			◎			
231	専門科目群II	児童英語教授法II	2	選択		○			本科目は「児童英語教授法I」の総編として、子どもに英語を教える際の教授法を学び、前回学ばなかった領域を扱う。まず前回の主要な方法を復習し、CEFRやCLILの活用を考える。さらに英語の授業戦略を学び、日本との違いを討論する。加えて、ゲームや教育用ソフト、AIの教育利用を検討し、バイリンガリズムとその教育的影響を考察する。最後に各自が学んだ分野について発表を行う。TOEIC400点以上が望まれる。					○	○			◎			
232	専門科目群II	英米児童文学A	2	選択					英米の児童文学を対象に、初期読者向けから高学年向けまでの作品を年代順に学ぶ。子どもがどのように読みを習得するかに注目し、フォニックスや絵本の役割を考え、韻や反復、触感的要素などを分析する。有名作家の作品や寓話・神話・童話を取り上げ、文化や時代背景が物語に与える影響を考える。最後に学んだことをまとめて発表し、児童文学の多様性と魅力への理解を深める。TOEIC350点以上が望まれる。					○		◎					

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	
233	専門科目群II	英米児童文学B	2	選択					英米の児童文学を対象に、中学生向けからヤングアダルト向けまで年代順に学ぶ。「英米児童文学A」の続編として児童向け作品を復習した後、上級児童文学の特徴やジャンル、若年層向けとの違いを考える。さらに、漫画や現代のヤングアダルト作品も扱い、英米の人気作家の作品を例に分析する。最後に学んだことをまとめて発表し、児童文学の理解を深める。TOEIC400点以上が望まれる。			○	◎							
234	専門科目群II	発達心理学		選択					発達心理学における主要なトピックを中心に概説し、基本的概念および知識を習得することをねらいとしている。その際、胎児期から老年期にわたる各時期における発達の特徴について理解を深めながら、受講者自身の発達の軌跡について洞察を深める手だてを得る。また、子どもの発達に関して近年注目を集める「養育者の役割」「虐待」「発達障害」といったトピックについては、実際の事例を交えながら詳しく紹介していく。				○	◎						
235	専門科目群II	International Communication	2	選択		○	○		In this course students will be discussing issues related to international understanding and international communication based on the personal experiences and the readings distributed in class.	○		◎	○							
236	専門科目群II	Language Acquisition	2	選択					語学学習および教育について機能的に話し合うとともに、授業計画と模擬授業を通じて英語の教える方を学び実践することによって、外国語がどのように習得されるか、いかにして外国語として英語を教えるかについての知識を向上させ、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの言語スキルを育成させるとともに、さまざまな方法とテクニクを分析して流暢さと正確さを向上させる。	○		◎	○							
237	専門科目群II	English Project Education A	2	選択		○	○		この授業は英語学習、海外研修、留学の帰国授業として設計される。学生は様々なテーマに関する英語によるプロジェクトを経験し、レポートや論文執筆、プレゼンテーションを行うことが求められる。テーマとしては、言語、文化、歴史、芸術、文学、社会、文化体験などが想定される。自国文化と留学・研修先文化の比較考察も可能である。	○		○				◎				
238	専門科目群II	English Project Education B	2	選択		○	○		この授業は英語学習、海外研修、留学の帰国授業として設計される。学生は様々なテーマに関する英語によるプロジェクトを経験し、レポートや論文執筆、プレゼンテーションを行うことが求められる。テーマとしては、言語、文化、歴史、芸術、文学、社会、文化体験などが想定される。自国文化と留学・研修先文化の比較考察も可能である。	○		○				◎				
239	専門科目群II	Mentor Program	2	選択	○	○			Students help each other with homework, pronunciation practice and studying skills. The Program gives the students opportunities to improve their English proficiency and teaching skills.	○		○			◎					
240	専門科目群II	English Teaching Methodology I	2	選択	○	○			地元の小学校で教える英語のレッスンを計画し、準備し、子供たちに提示する手順を直接体験することによって、幼児（幼稚園から小学校）に外国語を教えるための原則を学ぶ。チームに分かれて、年齢に応じた授業内容の決定、研究活動、小学校で使用する教材の準備を行う。実習日に生徒は授業を行い、習速に教員からフィードバックを得る。	○		◎	○							
241	専門科目群II	English Teaching Methodology II	2	選択		○			地元の小学校で教える英語のレッスンを計画し、準備し、子供たちに提示する手順を直接体験することによって、幼児（幼稚園から小学校）に外国語を教えるための原則を学ぶ。チームに分かれて、年齢に応じた授業内容の決定、研究活動、小学校で使用する教材の準備を行う。実習日に生徒は授業を行い、習速に教員からフィードバックを得る。	○		◎	○							
242	専門科目群II	Oral English for Children A	2	選択	○	○			「Oral English for Children A」は、児童英語指導に必要な教授法や技術を学ぶ。受講生はコミュニケーション活動を実践し、それが教授法とどう関連し適切かを検討する。各回で教授法を学び、子ども向けのゲームや活動に応用する。授業での実践を基にレッスンプランを作成し、グループでの実習や模擬授業を行い、発表を通して指導力を高める。	○		○			◎					
243	専門科目群II	Oral English for Children B	2	選択		○			「Oral English for Children B」は「A」の続編として、児童英語指導に必要な教授法や技術を学ぶ。受講生はコミュニケーション活動を実践し、それが教授法とどう関連し適切かを検討する。各回で教授法を学び、子ども向けのゲームや活動に応用する。授業での実践を基にレッスンプランを作成し、グループでの実習や模擬授業を行い、発表を通して指導力を高める。	○		○			◎					
244	専門科目群III	日本語学概論A	2	選択					この授業では、日本語学の専門的な知識を身につけることを目的として、日本語の構造に関する領域を幅広く学ぶ。初めに、日本語の系統や「共通語」と「標準語」の概念等を学ぶ。その後、語の形（音声と音韻、アクセントとイントネーション等）、文字と表記（漢字、仮名、ローマ字等の表記体系）、意味（語の意味、意味の体系等）について基礎的な概念を学ぶ。							◎				
245	専門科目群III	日本語学概論B	2	選択	○	○			この授業では、主に日本語教育のための日本語分析について学ぶ。「日本語学概論A」と合わせて、日本語学・日本語教育の専門知識として日本語の構造を幅広く学ぶ。この授業では、日本語教育のために、(1)形態・語彙体系、(2)文法体系、(3)意味体系、(4)語用論的規範を理解し、具体的な例を挙げ説明することができることを到達目標とする。加えて、日本語研究と日本語教育の関係についての理解もはかる。			○								
246	専門科目群III	日本語の音声	2	選択		○			この授業では、日本語音声学の基礎知識を身につけることを目標とする。日本語教育のための日本語の音声の仕組みを体系的に学ぶ。日本語の音声に関する理論や知識を能動的に学ぶのではなく、自分自身の声を客観的に観察し、内省することを通して音声学の知識を深める。授業は講義パートと演習パートに分け、演習パートではペアやグループでアクティビティやディスカッションを行う。				○			◎				
247	専門科目群III	日本語の語彙・意味	2	選択					この授業では、日本語学・日本語教育学の専門知識として日本語の語彙論・意味論について幅広く学ぶ。主な授業内容は、日本語の語彙を、語の内部構成や意味、語彙の体系、計量的分析などの視点から概観する。そして、語彙をこれらの視点から考えることで、日本語の語彙・意味のさまざまな面を理解し、日常的な表現を自分で分析したり説明したりできるようにする。		○		○			◎				
248	専門科目群III	日本語の文法A	2	選択		○			「日本語の文法A」では、中学校・高等学校の国語科教員になるための国語文法（学校文法）を理解することを目的とする。また、日本語母語話者は、自身の母語である「日本語」を見つめ直すことによって、日本語学習者は、自身が学習した「日本語」を考え直すことによって、言葉に対する分析力や論理的思考力を養うことも目的とする。		○		○			◎				
249	専門科目群III	日本語の文法B	2	選択		○			「日本語の文法B」では、外国人に日本語を教えるための日本語文法を学ぶ。まず、形容詞や動詞などの品詞、活用、文の特徴と種類、文の成分などを学ぶと同時に日本語学習者がどのように文法を学ぶのか、初級日本語の教科書からも概観する。そして、得た知識を基に実践的な文法の教え方について考える。また、テンス、アスペクト、ヴォイスなどは日本語教科書でどのように教えられているのか、簡単に概観する。			○				◎				
250	専門科目群III	日本語教授法(教授法)	2	選択		○			本科目では、日本語教育に関わる専門知識・スキルとコミュニケーション能力を身につける。そのために日本語教授法の基となる外国語教授法を理論的にそって学び、教えるための知識を養う。そして日本語教育への応用として特にオーディオリングアルアプローチとコミュニケーションアプローチがどのように日本語教育に影響を与えたかを理解し、実習につなげる。目標は、日本語教授法を理解し、実践できる能力を身につけることである。		○				◎					
251	専門科目群III	日本語教授法(コースデザイン・評価)	2	選択		○			前半はコースデザインの概要を学び、学習者に合わせた目標、シラバス、スケジュール、教材、授業方法をどのように決めていくかを理解し、最後に依拠したコースデザインを作成してみる。後半は学習評価の基礎について学びながら、実際にどのような評価方法があるか、事例を見ながら理解を深め、依拠のテストの作成および分析を通して理解を確認する。		○		○			◎				
252	専門科目群III	日本語教授法(教材・教具)	2	選択		○			本科目では、日本語教育に関わる専門知識・スキルとコミュニケーション能力を身につける。そのために日本語教授法の基となる外国語教授法を理論的にそって学び、教えるための知識を養う。そして日本語教育への応用として特にオーディオリングアルアプローチとコミュニケーションアプローチがどのように日本語教育に影響を与えたかを理解し、実習につなげる。目標は、日本語教授法を理解し、実践できる能力を身につけることである。		○				◎					
253	専門科目群III	日本語教育事情	2	選択	○	○			日本語教育の5区分のうち、社会・文化・地域に関わることについて学ぶ。世界と日本の日本語教育事情については、その実例を、教育作成のDVD（ゲスト講師に対する教員のインタビュー）を観ながら学ぶ。国内外の日本語教育の動向を概観し、今後日本語教育は国境を越えて、どのように広がっていくのか、自らがどのように関わっていくのかを考察する。				○			◎				

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- DP 2 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- DP 3 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- DP 4 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- DP 5 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- DP 6 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- DP 7 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

授業 掲載 順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10
254	専門科目群Ⅲ	日本語教育実習Ⅰ	2	選択		○			日本語教育プログラムに基づいた教育実践を行うために、プログラムの構成要素及び、編成手段、改善方法について理解する。まずは、「日本語教育の参加者」の理解の確認を行った上で実践研修を行う。授業計画において、到達目標の設定（Can-do）、場面設定、指導項目の設定（文型導入）、授業構成・展開（固定的練習・創造的練習）、授業作成と授業のシュミレーションなど授業計画の一連の流れを理解する。		○		○		◎				
255	専門科目群Ⅲ	日本語教育実習Ⅱ	2	選択		○			日本語教育プログラムに基づいた教育実践を行うために、プログラムの構成要素及び、編成手段、改善方法について理解する。授業計画において、到達目標の設定（Can-do）、場面設定、指導項目の設定（文型導入）、授業構成・展開（固定的練習・創造的練習）、授業作成と授業のシュミレーションなど授業計画の一連の流れを理解する。		○		○		◎				
256	専門科目群Ⅳ	国際交流演習Ⅰ	2	必修		○			本科目は、3年生を対象とし、1、2年生で学んだ内容に基づき、演習担当教員の指導のもとに研究を進める。国際的な場で活躍できる人材を目指すし、演習形式で専門的な知識を深めたり、実践的な活動能力を養うことを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく（１）言語、（２）国際関係・国際開発・国際協力、（３）異文化理解の3つがある。					◎	○	○			
257	専門科目群Ⅳ	国際交流演習Ⅱ	2	必修		○			本科目は、3年生を対象とし、1、2年生で学んだ内容に基づき、演習担当教員の指導のもとに研究を進める。国際的な場で活躍できる人材を目指すし、演習形式で専門的な知識を深めたり、実践的な活動能力を養うことを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく（１）言語、（２）国際関係・国際開発・国際協力、（３）異文化理解の3つがある。					◎	○	○			
258	専門科目群Ⅳ	国際交流演習Ⅲ	2	必修		○	○		本科目は、4年生を対象とし、国際交流演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に基づいて研究を進め、国際的な場で活躍できる人材を目指すし、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めたり、実践的な活動能力を養うことを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく（１）言語、（２）国際関係・国際開発・国際協力、（３）異文化理解の3つがある。					◎	○	○			
259	専門科目群Ⅳ	国際交流演習Ⅳ	2	必修		○	○		本科目は、4年生を対象とし、国際交流演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に基づいて研究を進め、国際的な場で活躍できる人材を目指すし、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めたり、実践的な活動能力を養うことを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく（１）言語、（２）国際関係・国際開発・国際協力、（３）異文化理解の3つがある。					◎	○	○			
260	専門科目群Ⅳ	国際交流研修A	2	選択		○			国際交流研修は、海外で実地に国際交流のスキルを向上させることを目的として行われる。事前学習において、渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を学び、実地の研修においてそれらを深く理解すること、事前から英語や他の外国語の能力を高め、実地の研修において円滑なコミュニケーションが図れることを目標とする。				○		○	◎			
261	専門科目群Ⅳ	国際交流研修B	2	選択		○			国際交流研修は、海外で実地に国際交流のスキルを向上させることを目的として行われる。事前学習において、渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を学び、実地の研修においてそれらを深く理解すること、事前から英語や他の外国語の能力を高め、実地の研修において円滑なコミュニケーションが図れることを目標とする。				○		○	◎			
262	専門科目群Ⅳ	国際交流研修C	2	選択		○			国際交流研修は、海外で実地に国際交流のスキルを向上させることを目的として行われる。事前学習において、渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を学び、実地の研修においてそれらを深く理解すること、事前から英語や他の外国語の能力を高め、実地の研修において円滑なコミュニケーションが図れることを目標とする。				○		○	◎			
263	専門科目群Ⅳ	コミュニケーション・インターンシップ	3	選択		○			日本語教育を実践するための海外インターンシップである。出国前に、教材・授業作成およびリハーサル授業を準備として入念に行い、現地で、訪問先の日本語学習者と積極的に交流し、グループに分かれて日本語の教育実践を行う。帰国後は担当教員および参加者間で反省会を行い、お互いの授業についてディスカッションをし、よりよい授業ができるように改善を図る。					○	◎	○			
264	専門科目群Ⅳ	卒業論文	2	選択		○	○		卒業論文とは、学生各自が演習において受ける研究指導の成果を基に、学生自らの独自の研究・調査を学術論文の形式に従ってまとめるものである。国際交流学科においては、卒業論文は選択科目であるが、卒業論文を履修する学生は、演習担当教員（および、必要に応じて副査教員）より、論文作成の指導を受けて執筆することになる。					◎		○			
265	専門科目群Ⅴ	教育原理	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
266	専門科目群Ⅴ	教育課程論	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照		○		○				◎		
267	専門科目群Ⅴ	教職論	2	選択		○			経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
268	専門科目群Ⅴ	教育心理学	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
269	専門科目群Ⅴ	特別のニーズ教育論	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
270	専門科目群Ⅴ	教育制度	2	選択		○			経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
271	専門科目群Ⅴ	教育方法論(ICT活用を含む)	2	選択		○			経営情報学部の「科目の概要」を参照		○		○				◎		
272	専門科目群Ⅴ	英語科教育Ⅰ	2	選択		○			英語科教育および関連する第二言語習得の理論および実践の側面を概観し、4技能（speaking/writing/listening/reading）5領域（「やり取り」のspeakingと「発表」のspeaking）指導に必要なとなる語彙の語根、教科教育の意義、目的、コミュニケーション能力、教師と学習者、文法、第二言語習得、教材論などを理解する。			◎		○		◎			
273	専門科目群Ⅴ	英語科教育Ⅱ	2	選択		○			まず授業の流れを概観し、その「型」を学んでいく。その上で、実際に中学・高校の英語教科書で扱われる文法事項を、学習者用文法指導書も参考にしながらその理解を深めるとともに、英語を使って（一部日本語）どのような文法指導をしていくかを学習していく。授業実践については、実際の授業ビデオも利用して、どのような点がうまくいっているか、どのような改善点が必要かについてもクラスで議論をし、模擬授業も行う。			○		○		◎			
274	専門科目群Ⅴ	英語科教育Ⅲ	2	選択		○			Peer reviewをしながら模擬授業で実践力の向上をしていきたい。そのために、重要文法事項、リーディング、リスニング、スピーキングおよびライティングの4スキル5領域、そしてそれを総合的にコミュニケーション活動に生かす指導を、模擬授業を通して実践していく。模擬授業を担当しない場合には、生徒役として授業に参加し、指示されたタスクをこなしながら授業方法の改善点をお互いにフィードバックする。			○		○		◎			
275	専門科目群Ⅴ	英語科教育Ⅳ	2	選択		○			コミュニケーション活動、文法事項のFocus on Formでの処理、語彙指導のポイント、ライティング、オラル・イントロダクション、ワークシートおよび授業案の作成方法、ペア/グループワークでの運営等、総合的にリビューし実践できるようにする。講義と模擬授業を組み合わせ、知識を実践的な運用能力に生かせるようにしていく。教育実習を念頭に、これまでの学習内容をさらに実践的に応用できる力をつけていく。			○		○		◎			
276	専門科目群Ⅴ	道徳教育の理論と方法	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
277	専門科目群Ⅴ	総合的な学習の時間の指導法	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
278	専門科目群Ⅴ	特別活動論	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照				○				◎		
279	専門科目群Ⅴ	生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照					○	○		◎		
280	専門科目群Ⅴ	教育相談(カウンセリングを含む)	2	選択					経営情報学部の「科目の概要」を参照					○	○		◎		
281	専門科目群Ⅴ	介護等体験	2	選択		○			経営情報学部の「科目の概要」を参照					○	○		◎		
282	専門科目群Ⅴ	教育実習(事前及び事後指導を含む)	3	選択		○			経営情報学部の「科目の概要」を参照					○	○		◎		
283	専門科目群Ⅴ	教育実習Ⅱ	2	選択		○			経営情報学部の「科目の概要」を参照					○	○		◎		
284	専門科目群Ⅴ	教職実践演習(中・高)	2	選択		○			経営情報学部の「科目の概要」を参照					○	○		◎		